



0047304000

0047304-000

特220-346

母の算数

藤森良蔵・〔著〕

国民図書刊行会

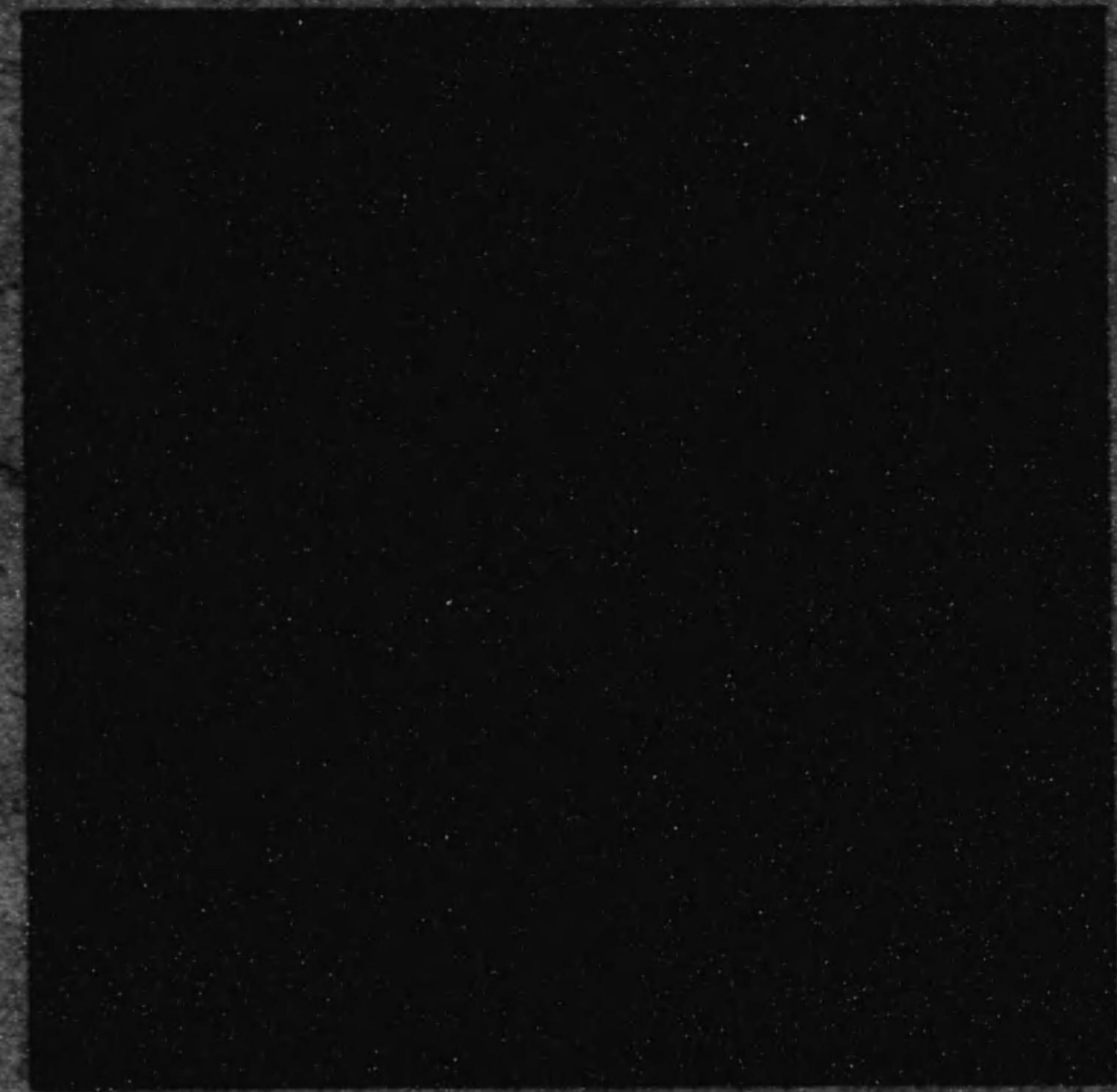
昭和19

AHF

母の算数

藤森良蔵

444
224



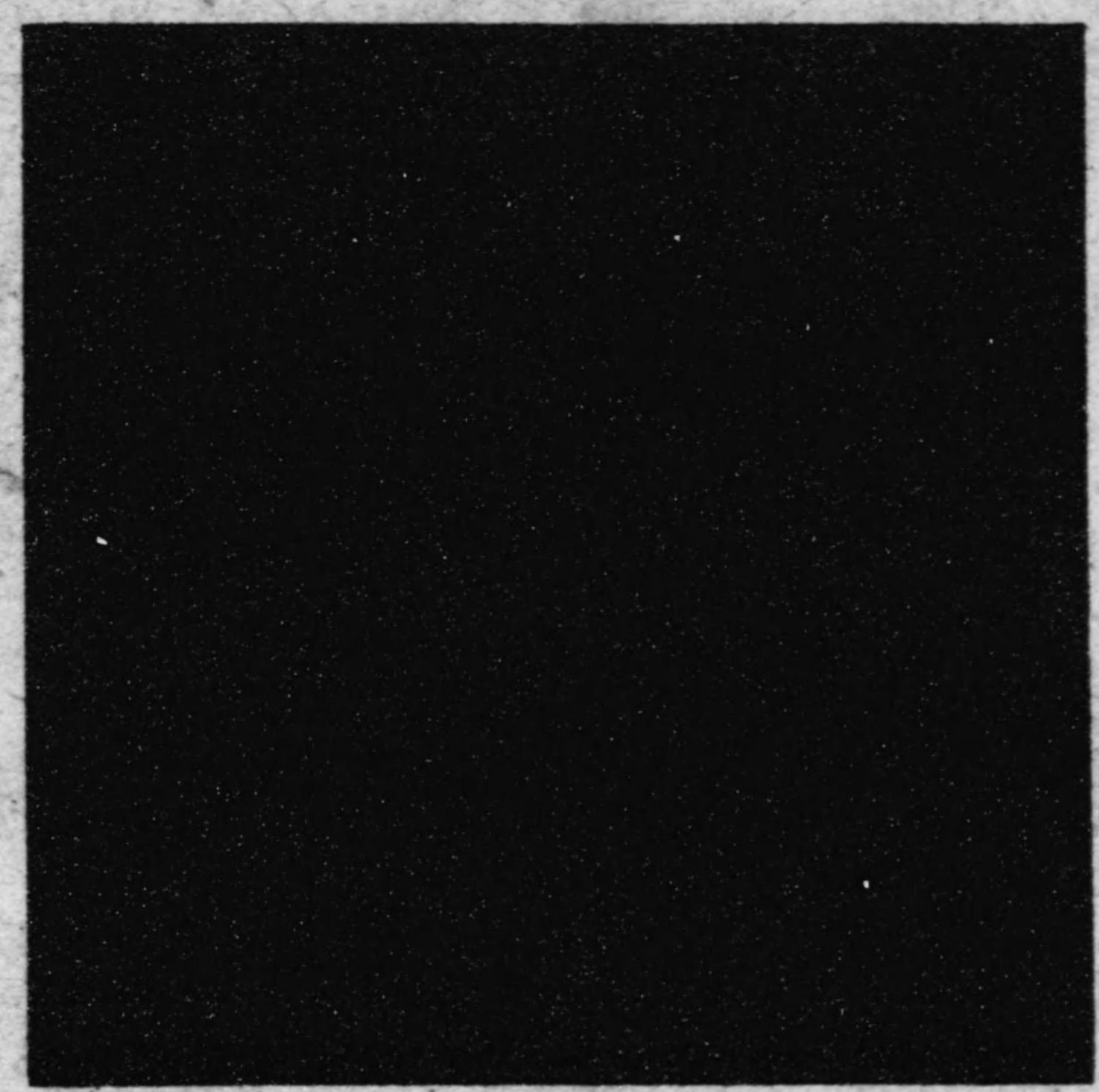
大政翼賛會

24
24

444
224

母の算數

藤森良藏



14
24

大政翼贊會

特 220
346

母の算數

藤森良藏

この本を お読みになつ
たら隣組や お友たちに
回覧して下さい これか
らは雑誌でも 本でも
一冊を十人も三人もの人
で讀めるやうに お互ひ
に工夫してゆきませう

大政翼贊會



勝ちぬく誓

みたみわれ	大君にすべてを捧げまつらん
みたみわれ	すめらみくにを護りぬかん
みたみわれ	力のかぎり働きぬかん
みたみわれ	正しく明るく生きぬかん
みたみわれ	この大みいくさに勝ちぬかん

目次

はしがき	1
数の構成	7
第一 1 から 5 までの数の構成	(10)
1 の構成	11
2 の構成	18
3 の構成	21
4 の構成	28
5 の構成	31
1 から 5 までの数の構成	(35)
算数お経	(40)
母の心構三ヶ條	(51)
第二 6 から 10 までの数の構成	(52)
6 の構成	60
7 の構成	61
8 の構成	62
9 の構成	63
むすび	65

はしがき……1

はしがき

昭和十年緑表紙の國定算數書を手にした私は、東京市教育局の後援を得て、一年生とその母との算數に對する母の心構についての講演會を試み、本年までに百七十餘回に及んで居るのでありますが、その光景はまことに思ひがけないものがあつたのであります。

面白いお話や、お芝居ならともかく、面白くもない算數の話を
お母さんとそのお子さんが、お手々つないで行儀よく二時間とい
ふ長い間熱心に聴き入つたといふ不可思議な事實は、今更の如く
母心の尊さを感じさせられたのであります。

二人も三人ものアカチャンを抱いて、そのアカチャンをなだめながら、一語も逃すまじと聴き入るお母さんや、長男は立派に社會に活動してゐて、次男は大學生、長女には孫の一人二人もあるといふ様なお母さんが、七つ八つの童心に歸つて、口を開いたり、首を振つたり、うなづいたり、數學三昧境の人となつた事實は、理窟ではなしにお母さんが

子供と共に科學的躰を受け様として居る

ことを示すものであります。

殊に感銘が深かつたのは、王子の第二岩淵國民學校で第一回の講

演會を開いた昭和十年頃のことです。實はここのお母さんたちの態度があまりにも眞剣なので、引續き各地で講演會をする氣になつたのでありますが、校長さんの話では、子供が通信簿を持つて家に歸ると、お父さんは他の科目には目もくれず、算數の成績だけを見て、それが悪いといきなり手をあげてボカンと來るといふことであります。校長はどうも不思議なことだと話されたのでありますが、これは不思議どころではない、まことに當然すぎるほど當然なことだと考へるのであります。

この邊には軍需工場が澤山あり、子供等のお父さんは多くはこの工員だつたのであります。しかも、昭和十年といへばわが日本が打倒米英に向つて、着々とその準備を進めてゐた時代であります。工場に於ては新しい發明や工夫がどしどし取入れられ、一工員といへどもアタマ次第ウデ次第で、學校出の技師をとび越えて、責任ある地位につくことが出来るやうな活潑な氣運が動かうとして來た時であります。お父さんたちが子供の將來を考へたとき

科學技術の根柢をなす算數

に目をつけたのは、全く無理もない話であります。

お母さんたちが二人三人の子供をなだめすかしながら、算數の話に聽き入つた理由もまたこの邊にあつたのではないかと思はれます。その後蒲田、川崎等の工都に於ても、全く同様の光景に接したことは、この推定を裏書するものといへませう。

爾來八星霜、打倒米英の火蓋は切つて落され、全地球をゆるがす苛烈きはまる近代戰が繰り展げられ、直接の戰鬪とならんで、銃後を擧げての生産戰が、勝利のために絶對的な意味を持つて参りました。國を擧げて科學技術への總進軍が開始されたのであります。この秋に當り、全日本の親心が

子供の科學的躰

といふ大切な事に向けられるのは當然でありませう。

昭和十六年四月一日、新しく出發した國民學校では

皇國の道を修練し

立派な日本人

を作り上げるための最も重要な躰け方の一つとして

科學的躰

を取り上げて居るのであります。

これは國民學校に於ける鍊成の全體を貫く根本理念の一つであり、單に理數科だけによつてその目的を達し様とするものではないのであります。例へば、一年前期の

ヨイコドモとヨミカタ

の

二 冊

により、算数の根柢たる

一から九までの数の構成

が完全に學び得られることを私は「幼稚園から一二年算數母の心構」といふ著書で具體的に示したのでありますが、これはヨミカタなりヨイコドモなりによつて

立派な日本人

を作り上げようとするのであるが、その躰そのものが算數の躰となるべきものである事を示してゐるのであります。昔から母が子供を寝せつけながら物語つた桃太郎の正しい語り方は、そのまま算數の根本の正しい躰となるのであります。

桃太郎の話に最初に出て来るのは犬であります。そして犬のいふ事には「お腰に付けたものは何か」桃太郎の返事「これは日本一のきび團子だ」そこで犬のいふことには「一つ下さいお供をしませう」桃太郎のやつたこと、「一つのきび團子を與へる」犬がお供をする。次に猿が出て来る。ここで日本のお母さんは「同じ様なわけで猿もお供をしてついて来た」とはいはないのであります。犬といふのを猿にかへて、長々と同じ言葉を繰り返へして猿がお供をする事になつた次第を物語るのであります。そして又同じ言葉を繰り返へして雉子のお供をする事になつた次第を物語るのであります。これによつてお母さんは子供に

一から二へ、二から三へ、三から四へ、……といふ日本科學の正しい態度を體得せしめると共に、お母さん自身もこの正しい科學的態度を鍊成することとなるのであります。

日本の母は子供のためには一晩や二晩ではない。毎晩毎晩子供の前途を衷心から幸あれとの念願の下に、この同様の繰り返へしを鍊成したのであります。私共日本人は

この桃太郎の話を通して、この同様の繰り返へしのアタマをシツカリ作つて来たのであつて、かうしたところに日本科學の精神を見出さなくてはならないのであります。

毎晩毎晩同じ話を繰り返へすのは並大抵の努力ではないのであります。子供のためには、イツでもドコでも、その子供の氣持になりきれぬ日本の母でなくては成し得られない事であります。私は桃太郎精神は日本精神の根元とさへ信じて居るのでありますが、一體こんな話を何のために毎晩毎晩努力を込めてやるのかなぞと理窟はいはずにやつてきたこの話が、前線も銃後もシツカリとツナガリ合つて世界を驚倒すべき戦力となつて現はれた事を思ふ時、桃太郎の話だけでなくヨミカタやヨイコドモを通して

立派な日本人

を作り上げるに當つて、更に數學的躰、科學的躰を以てこれに意義づけたならば、一層の力強きものとなるべきを信じて疑はないもの

6……はしがり
であります。

ところで、幼児に正しい科学的メバエを與へ、シツカリした科学的美を身に付けさせるには、指導者としてのお母さん方が正しい科学的態度をとらなければなりません。従つて

幼児の科学的美は母の科学的美から

でなくてはならないのであります。日本の母は、子供のためには、イツでも、ドコでも、その子供の氣持になりきれるのであります。本當の子供の氣持になりきれぬ母でなくては、その幼児に眞のウナヅキ、心からなるホホエミを與へる程の正しい科学的メバエを與へることが出来ないであります。もちろん幼児の指導者としては、その幼児を取りまくところの凡ての人々——祖父母、父母、兄弟、姉妹、親戚の人々、近所の人々その他が考へられるのであり、そして、それらの人々の中の誰が一番大きな影響を及ぼすかは個々の場合によつて異なるわけではあります、何といつてもお子さんにとつて最も親しみのあるのはお母さんであり、そして、そのお母さんはまた家庭の主婦であるのであります。でありますから、その幼児を取りまくところの凡ての人々におかれても一致協力主婦としての母、幼児にとつて最も親しみある母としての氣持で接する時、更に大きな教育的意義が期待し得られるので、これ等の人々をも考慮に入れながら以下「國民算數母の心構」の本筋に這入ることと致します。

數の構成

母の心構 數の構成の基礎は

整數の構成

であります。そして整數の構成の基礎は

1, 2, 3, 4, ……………

であり、私どもは、これに意義付けて

1 から 2 へ、2 から 3 へ、3 から 4 へ、……………

といつて、正しき學び方の態度、正しき考へ方の態度、正しき解き方の態度は、全くこれによつて鍊成され習慣付けられなくてはならない事を主張宣傳して三十有餘年に及んで居るのであります。

一つのもが一つ増して二つとなり、二つのもが一つ増して三つとなり、……といふ様に一つづつ増して行く増し方が一番簡單で而も一番キチントした増し方

であるといふ意味であるのであります。そして國民學校一年の前期、後期二年の前期に於ける

整數の取り扱ひは

一から百までの數の構成……數の構成といつても、そのうちの加法、減法の二つをシツカリさせる事が算數の中心であるといふ事をシツカリあたまに入れて戴きたい。

といふ事があります。

一年は三百六十五日である

だから、一年半では約五百日かけて一から百までの加減をシツカリさせさへすれば、それでよい譯である。

といふ様に考へられるならば、スパシツコイとかノロマ、ハシツコイとかグズは少しも、問題ではないのであつて、一から百までの加減を十日か二十日でやつて了へとか、一ト月か二ヶ月でやつて了へとかいふならば、ノロマやグズのお子さんを持たれたお母さん方にとつては實にミジメであるのですが、五百日もかけてよいのですから有難いのであります。

ここに百人のお母さんが居ります。九十人まではノロマの子、グズの子を持つて困つて居ます、スパシツコイ子、ハシツコイ子を持つて喜んで居るお母さんは、たつた十人です。

物の正しき考へ方

は逆に考へて見るといふ事があります。

「人をツネツテ自分のイタサを知れ」といふのではなく

「自分をツネツテ人のイタサを知れ」

といふ様なのがそれでありませう。

ここに百人のお母さんが居ります。九十人まではスパシツコイ子、ハシツコイ子を持つてよろこんで居ます。ノロマの子、グズの子を持つて困つて居るお母さんはたつた十人です。

ところが、日本のお母さんは仕合せ

であります。百人中九十人まではノロマの子、グズの子を持つて居るのですから、自分の子もノロマであり、グズであるが、近所隣りを見ながらマア良かった。

これは、過去八ヶ年百七十有餘回に亘つての母の算教講習會に於ける實際であるのですが、ここまで講演が進んで來ると、全お母さんはホガラカになるのであります。

自分の子もノロマであり、グズであるが近所隣りの子もノロマでありグズである。

ヨシ！一年は三百六十五日である

親ならではの親心を込めてドン物を化して秀才たらしめん

との決意を固めしめたのであります。

第一 1から5までの数の構成

母の心構 私は、母と子の算数指導用として色々のオモチャを拵へました。そのうちで、一番お母さんにもお子さんにも気に入られたのが犬のオモチャでありました。犬が一番歓迎されたので、ここでは犬を例に取つて述べる事に致します。このオモチャの犬を

音吐朗々一匹、二匹、三匹、と数へながら、お母さんが一匹づつ取り出し将来に幸あれかしと心に念じつつ、キチンキチンと並べて行く處に自然に數に親しみを覚えてくるのであります。そして一から二へ、二から三へ、三から四へ、四から五へ、と數へて一から五までの數が良くシツカリ呑み込めれば、それを呑み込む迄の「ノロイ」「ハイ」は問題ではないのであつて、呑み込みさへすれば

占めたもの！

一から五までの數は、そのものを見ただけで數へないでも直ぐにいくつあるかといふ事がわかるのであります。

國民學校一年前期の教科書は、何れも繪本であります。

アカチャン→オモチャ→エホン

これが自然の順序であります。實物なり、オモチャなりを通して、數の構成を呑み込ませた時、次に來たるものは、繪本を通しての數の構成であります。繪本を通しての數の構成は「カズノホン」に限るべきではないのであります。「ヨミカタ」を通し「ヨイコドモ」を通してやつて良いのであります。この心構の下に「ヨミカタ」の六頁から七頁に亘つての一つの繪を取り上げる事と致します。

1の構成

お母さん方は「ヨミカタ」六頁、七頁をお子さんと一緒に開いて下さい。

母の心構 アカイ アカイ アサヒ アサヒといふ文章から、地球にとつて一番大切なる貴い一つとしての

太陽の一つ

を力強くお子さんに植ゑ付ける事が、この繪を通しての

數學的魅カ

であります。而もこの繪の構成の要素はと考へて

犬が一匹

女の子が 左から右へ一人、二人、と數へて 二人

男の子が 左から右へ一人、二人、三人と數へて三人

は、誰の眼にも付くのであり、又この五人の子供によつて、

アカイ アカイ アサヒ アサヒ と叫ばしめた言葉は、

四つの言葉

からなり立つといふ様に仕向けられたならば、お子さんの

發展的考へ方のメバエ

を力強く植ゑ付け得られると信ずるのであります。

何といつてもお子さんの躰はお母さんの躰からであります。太陽は實に光も熱も電氣もその他あらゆる生の源泉力を與へてくれる處の、地球にとつて掛けがへのない貴い一つであるといふ事をシツカリお子さんに呑みこませるには、まづお母さん自身が心の底から太陽は有難いものだと思ふ事であるのであります。

「ヨミカタ」十頁、十一頁を開いて下さい。

母の心構

ヒノマルノハタ バンザイ バンザイ

の文章から

世界に無比なる日本の國旗 が 一本

を力強く掴ませて戴きたいのであります。

バンザイ で一唱

バンザイ バンザイ で二唱

バンザイ バンザイ バンザイ で三唱

で、バンザイは普通三唱する事となつて居るのであります。

曲線の中で一番簡単で而も一番形の良いものは「マンマルイ圓」であります。そして日本の國旗は一番簡単で然も一番形の良いマンマルイ圓を取り、白地へ赤色で表はして、全世界にとつて大切な貴い一つの太陽にかたどり、日の本を象徴したものであるのであります。

どこから見ても いつ見ても、富士のお山は美しい。
白い あふぎをさかさまに、かけた下から雲がわき、
すそ 引く はての 松原に、太平洋の波が立つ。
やさしいやうで ををしくて、たふといお山、神の山。
日本一の この 山を、世界の人があふぎ見る。

母の心構 昭和十六年十二月八日午前十一時四十分、米國及び英國に對して、宣戰の大詔が渙發され、矢つぎ早やに發表される古今未曾有の大戦果に——異常なる緊張と感激とに胸を打たれながらこの感激、この緊張を永遠に残すべく、全日本のお母さんを通して算數精神涵養の出發點に於ける、全日本のお子さんに

私ども日本人にとつて大切な一つとしての

靈 峰 富 士

を特に『ヨミカタ』四から採用した次第であります。何といつても

偉大なる算數精神の涵養は

世界一の一の建設

に、その一步をガツチリと踏み出させる

といふ事に存するのであります。全天下のお子さんにより、日本が背負つて立たれて、萬邦共榮の樂が立派に樹立され、世界人の凡てにより、この靈峰富士が仰ぎ見られる日の一日も早からん事を期して、全天下のお母さんを見つめながらこの稿を成したのであります。

「ヨイコドモ上」十二頁、十三頁を開いて下さい。

母の心構 何といても、この繪の持つ

數學的 魅力

は、
無邪氣で 快活で 丸々太つた 逞しい
一人の少年 金太郎

を見出さずには措かないのでありませう。假令そこには、

兎、猿、鹿、………、熊

と澤山の獸が居るとはいへ、幾匹居るかと考へさせるのはこの繪の本旨ではないのであります。兎、猿、鹿、……と残らず投げられて、最後に一番強い熊が美事に投げ飛ばされて居るところから

逞しい、強い、元氣な一人の少年金太郎

を彷彿せしめて、お子さんを持てる全天下のお母さんによつて、仕向けられた時にお子さんの健康は一步一步増進して、

健 康 日 本

といふ一つの大タバの建設を見るに至るのであつて、これが、この繪の興へる

數學的 使命

であるのであります。

母の心構 アカチャンが産れる。そのアカチャンが御兩親に對して、最初のアカチャンであつた時に、男ならば長男、女ならば長女といつて、それはその御兩親に對して大切なる

ではありませんか。そしてその産れた日を誕生日といつて、これをそのアカチャンの出發點とする。この誕生日はその御兩親に對しそのアカチャンに對し、極めて大切なる出發點の

ではありませんか。この一を出發點として

- 一 日、二 日、三 日、四 日、………
- 一 月、二 月、三 月、四 月、………
- 一 歳、二 歳、三 歳、四 歳、………

とだんだん大きくなつて行くのです。この

- 一から二へ、二から三へ、三から四へ………

とだんだん成長發達して

限りなく延び行く力を、そのお子さんに持たせようと念願するの
が、全日本人の親心ではないでせうか。

この親心が、全日本人にあつてこそ、明治から大正へ、大正から昭和へと

限りなき躍進日本

を現出して居るのではないでせうか。そしてこの躍進日本といふ力

強い偉大なる一つは、意義深き大切なる

—

ではないでせうか。この大切なる一をして米英獨佛に一步を先んぜしめて真に

世 界 一

の一に持つて行く事 — 而かもこの一は

天壤無窮・萬世一系
果しなき連続せる

—

でなくてはならない。この一大目標の下に、日本の數學はアカチャンを持てる全日本の母の手によつて建設されなくてはならない。

日本教育は良妻賢母によつて成された事を忘れてはならぬ。

何といつても、私どもの地球に對して

一番大切なる一つは

太陽

であります。だがこの一番大切なる太陽の一つは、全世界の人類が共に受くべきものであつて、私ども日本人のみが専有すべきものではないのであります。

ところが、私ども日本人は、

世界が持ち得ざる

貴い二つ

を持つて居るのであります。そして、それは

天壤無窮・萬世一系

果しなき連続せる

—

太陽にかたどり日の本

を象徴した

日本の國旗

と

とであります。私どもはここに思ひを潜めて、どんな困難と戦つてもこの二つを死守して、

昭和維新達成

の難事業を仕遂げるために

米英獨佛に一步を先んずる

日本精神に立脚せる日本科學の建設

日本科學に立脚せる日本精神の樹立

を、陛下の赤子としての全天下のお子さんに植ゑつけるべく切願して止まない次第であります。

2 の 構 成

「ヨミカタ」十七頁、「ヨイコドモ」十六頁、十七頁
を開いて下さい。

母の心構 「ヨミカタ」十七頁は、子供は左から右へ一人、二人と数へて二人、フウセンは左から右へ一つ、二つと数へて二つあるのであります。そしてこの繪は

子供とフウセンとの二種類、男の子と女の子で二種類

となるのであります。ではフウセンの二つはと考へて、ここに大切な事は、少なくとも二つのものがあれば

同種類か 異種類か

と考へるといふ考へ方の態度をお子さんに植ゑ付けるといふ事があります。更にこの繪を見て、二人の子供が一つづつのフウセンを持つて仲良く遊んで居る事に考へ及ばせると、「ヨイコドモ」十六頁は持つて居る如露は一つであります。而も澤山のキレイな草花に男の子が水をやつて居るのを、女の子はサモ楽しさうに見て居るところであるから、これは

一つの 貴い協力

であります。二つの力を合せる事の如何に大切であるかは、ここに改めて申すまでもありません。「ヨイコドモ」十七頁は男の子、女の

子二人で

一つの包みに貴い協力

を捧げてゐる繪であります。

「ヨイコドモ」二十八頁、二十九頁と四十頁、四十一頁
を開いて下さい。

母の心構 お母さんから庭をお掃きなさいといひ付けられて、

一人で掃かずに、一郎と協力したのであるから
1人と1人で2人

といふ2の構成をシツカリ呑み込ませて戴きたいのであります。そして、二人の協力によつて、庭がきれいになつた時の喜びをシミジミと味はせて

二人の協力、二人の兄弟の協力こそ、三人の協力となり、三人の兄弟の協力は毛利元就の教訓を産み、一家の協力は隣りから隣りへの協力となり、やがては

一億一心の協力

に迄強化するに到る事を思はなくてはならないのであります。

「ヨイコドモ」四十頁、四十一頁は姉さんから「サア、學校へ行キマセウ」とさそはれた弟が、お母さんから「ジブンノコトハジブンデナサイ」と命ぜられた。この姉さんとお母さんの

二つのいひつけ

にすなほに従つて、姉と弟とがイツシヨに學校へ行く事は

1 と 1 て 2

のスナホの表はれであつて、これは

立派な教育への協力

であるのであります。

「ヨミカタ」五十頁、五十一頁を開いて下さい。

母の心構 これ迄の二人の繪は、男の子と女の子の異種類の二つであつたのですが、これは

お母さんとお子さんの異種類の二つで而もお子さんは女の子ですからお母さんと女の子の異種類の二つ

に迄進展し、更にお母さんは女であるから

女は二人で同種類の二つ

に迄考へを進めさせて戴きたいのであります。そして

兄弟の協力から母子の協力へ

と一步を進めたところに思ひを潜めて戴きたいのであります。

3 の 構 成

「ヨミカタ」十五頁と二十一頁を開いて下さい。

母の心構 1 の構成から2の構成へと學び進んで、2 の構成をシツカリ擱んだのでありますから、ここで2の構成から3の構成へと學び進む事に致します。「ヨミカタ」十五頁は

左から右へ 一人、二人、三人と數へて 女の子が三人
左から右へ 白が一人、赤が二人と數へて
一人と二人で三人

となるのであります。『ヨミカタ』二十一頁は

左から右へ 女の子が一人、男の子が二人と數へて
一人と二人で三人
左から右へ順に 一人、二人、三人、と數へて三人
オツキサマは 一つで この一つは私どもの地球に對しては太陽
の一つと相俟つて

貴い一つ

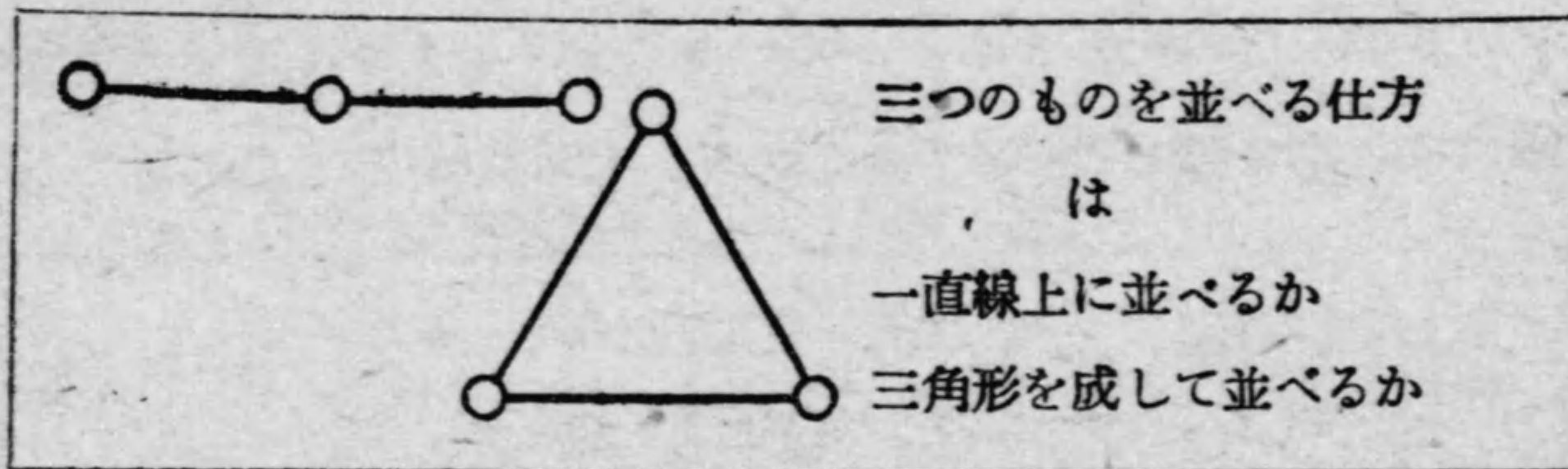
である事を呑み込ませて戴きたいのであります。

「ヨミカタ」二十七頁と「ヨイコドモ」十七頁を開いて下さい。

母の心構 前頁の3の構成は、横にマツスグに並べられた三つであつたが、「ヨミカタ」二十七頁も「ヨイコドモ」十七頁も何れも

三角形を成してキッチンと並んで居る

といふ事があります。そして



の何れか二つより無い事をお子さんに呑み込ませようとの心構をシツカリ掴んで戴きたいのであります。

2の構成として取つたところの三つの繪のうち、十八頁の二人の子供は多分お友達でありませうが、十九頁は確かに兄弟であり、二十頁の二人は親子であるのであります。學校の方からいへば、お友達を取つた方が良くも知れませんが、家庭に於けるお母さんとしては、兄弟を取る方が自然であると思ひます。最初に産れたアカチャンの正しき躰の一に出發して、次のアカチャンが産れて二人の兄弟となつた時、ここに大切な事は「協力精神涵養」であり、協力は二人から始まるといふ事であるのであります。

「ヨイコドモ」三十頁、三十一頁を開いて下さい。

母の心構 右の繪は、姉さんが弟の遊びに協力して、エホンを見たりツミキをしたりして、お母さんのお留守を完全に守つて居るヨイコドモを示したものであり、左の繪は、お母さんが歸つて來られたので、弟がヨロコソ走り寄つた。そのヨロコソ走り寄つた弟の手を取つて

ヨク オルスパンヲ シテクレマシタネ

と、ほめて下さるお母さんの姿と

弟と協力して、お留守を守つた事が、こんなにもお母さんに喜んで戴けるのかとシミジミと感じ入つた姉さんの姿を示してある。

と、親心を込めてお子さんにいひ聞かせて戴きたいのであります。

姉さんと弟の二人の協力は、そこに母が一人加つて
二人と一人で三人

となり、兄弟二人のこの立派な協力の、お母さんが心からほめてくれるに何の不思議もないと、お子さんのアタマの底にシミ込んで

兄は弟を思ひ 弟は兄を思ふ
親は子を思ひ 子は親を思ふ

の境地への達成に一步を力強くふみ出す事となるのであります。

「ヨミカタ」三十一頁を開いて下さい。

母の心構 これは『ヨミカタ』二十九頁からの続きであります。

ハナ子の家へ ハルエさんが来て 一人と一人で二人
そこへ又 キヌ子さんが来て 二人と一人で三人

となつたのであります。

二人のお友達の協力から、三人のお友達の協力へ

と一歩を進めたものであり、正しきお友達の協力は、正しき隣組の協力の第一歩となるのであります。

「ヨミカタ」十六頁を開いて下さい。

この三人は兄弟であります。兄さんの愛撫と労りの聲にさそはれて、アカチャンがヨチヨチ歩いてくるのであるから

一人と一人で 二人

であるが、そのウシロに姉さんが付いて居るので、

男の子二人と女の子一人で 三人

となるのであります。又アカチャンのアンヨに協力を捧げて居る、姉さんの労りを考へれば

右向きのアカチャンと姉さん、左向きの兄さんで
二人と一人で三人

となるのであります。

「ヨイコドモ」十八頁、十九頁を開いて下さい。

母の心構 この繪と文章から、どうしても掴んで戴きたい事は

「モウ、ゴハンデスカラ カヘリマス」

と右の子がいつた言葉から

それまでは、何をして居たのか

と考へる様に仕向けて戴きたいといふ事であり、すると

左の二人の兄弟へ協力して 二人と一人で 三人

が仲よく遊んで居た事がわかり、更に

「マタ アシタ イツシヨ = アソビマセウ」

といふ言葉に

三人の明日への協力

がある事を掴んで戴きたいのであります。そして仲よく楽しく遊んで居た三人が、明日の協力を約束して別れを告げて居る事から

3 とる 1 は 2 といふ **減法の正しきメバエ**

を植ゑ付けて、一人のお友達が歸つた後残つた二人の兄弟が、遊びつ放しをせず、尙も協力を續けて、オモチヤをかたづけたといふこの二人の兄弟を通して、ここにも

躰の教學的意義

がある事を思はなくてはならないのであります。

「ヨミカタ」七十四頁、七十五頁、八十一頁を開いて下さい。

母の心構 何といても、桃太郎は日本の五大童話中の

第 一 位

を占めるものであります。

勇ましい強い一人の桃太郎

は誰によつて育て上げられたかと考へて

オヂイサンとオバアサンの心を込めての協力を偲び

二人と一人で 三人

となるのであります。

清き小川の流れを持つ山家の平和な三人の生活も、この

一人の立派な桃太郎

を育て上げるにあつた事に思ひ到らしめて、勇ましき門出をオヂイサンは男らしくオバアサンは女らしく協力を込めて送り出すところに、假令

3 とる 1 は 2

なる減法に支配されて、二つに分かれて二人と一人になつても心と心とは堅く強く結びつけられて

日本の銃後の鐵の守り

が築き上げられるのであります。

桃太郎がお供に連れた犬、猿、雉子の三つのうち、犬と猿とは犬猿も管ならずといつて仲の悪いものと昔から決つて居る。

この三つを仲よく協力させたところに

桃太郎の偉大性

があるのであります。一本の矢では折れる、二本の矢ではあぶないが三本の矢では、どうしても折れないと教訓した。毛利元就は、現實の一個の桃太郎である。三本の矢も三人の兄弟も同じ種類から成り立つて居るのであるが、桃太郎の協力せしめた犬と猿と雉子とは異種類も異種類、犬と猿とが這入つて居るところの異種類である。これを打つて一丸として而かも、この三つの持てる長所に正しく順序付けて、先づ

- 第一に 雉子をして、鬼勢の様子を偵察せしめ
- 第二に 猿をして、かたき門の扉を開かしめ
- 第三に 桃太郎は犬と共に開いた門から攻めこんで

雉子と犬と猿の三つの長所を十二分に發揮させ、遂に鬼の大將を降参せしめたのであるから

日本の桃太郎は智と仁と勇との三つを兼ね備へた立派な

統率者としての第一人者

があるのであります。

4 の 構 成

「ヨミカタ」二十三頁、二十四頁、二十五頁を開いて下さい

母の心構 キチンと行儀よく並んで居る生徒の名を、右から左へ一人ずつ順に呼んで居るのであるから、

一人、二人、三人、四人と数へて四人
左の机に女の子が二人 右の机に男の子が二人であるから
二人と二人で四人

となるのであります。机は二つで而かも

同 種 類

である事、そしてこの二つの机に、男の子二人、女の子二人が、キチンと並んで居る事から

男のタバ と 女のタバは 異種類

といふところまで呑み込ませて戴きたいのであります。

二十四頁、二十五頁は、本田さんが描いたラツパの繪が一枚、渡邊さんが描いたグンカンの繪が一枚、鈴木さんが描いたサクラの繪が一枚、林さんが描いたフヂサンの繪が一枚であるから

一枚、二枚、三枚、四枚

と数へて、四人で描いた繪が、みんな四枚であるが

ラツパも、グンカンも、サクラも、フヂサンも

四つとも異種類の繪

である事をわからせて戴きたいのであります。

「ヨイコドモ上」二十六頁、二十七頁を開いて下さい。

母の心構 この繪とこの文章とからの

數學的考察

は、両親が二人、兄弟が二人 で四人

四人で一家を構成

して居るといふ事であるが、一人の病人でさへお父さんお母さんはアンナに心配して居られる。若しこの上自分が病氣になつたなら、四人のうち二人も病人が居る。両親の心配はどんなであらう。

達者の人は三人、病人は一人であるが、早く弟の病氣が治つて

四人とも残らず達者

になり、両親を安心させたい。といふ様な事をお子さんに考へさせる様に仕向けるところに、ヨイコドモとしての數學的使命があるのであります。

「ヨミカタ」三十三頁、三十四頁を開いて下さい。

母の心構 「ヨミカタ」三十三頁はイシを出した子供とカミを出した子供で

一人と一人で 二人

ハサミを出した子供は二人であるから

二人と二人で 四人

となるのでありますが、イシとカミを出した子供は男の子で、ハサミを出した子供は女の子であるから

男の子二人と女の子二人で四人

とも考へられるのであります。

ところが三十四頁を見ると三十三頁の左の女の子が鬼になつて居ます。負けた方が、鬼になり、勝つた方がかくれるのですから

鬼の方から考へれば
鬼は一人で かくれる方は三人で
1 と 3 で 4
かくれる方から考へれば
3 と 1 で 4

となるのであります。

5 の 構 成

「ヨミカタ」十二頁、十三頁を開いて下さい。

母の心構 ヘイタイサン ススメ ススメ……といふ文章から

一人の男の子が、一つのコクバンにヘイタイサンの繪を左の方から右の方へと 一人、二人、三人、四人と書いて五人目を書き終らうとして居ます。

4 と 1 で 5

書いた兵隊さんは五人

で、一人の男の子によつて書かれた五人の兵隊さんを

見て居るのは女の子 二人、
男の子と女の子で
1 と 2 で 3

子供は三人

であつて、この繪の數學的構成の要素は、

一つの黒板、三人の子供、五人の兵隊さん

の三つであり、それに

男の子の持つて居る一本のハクボクと一つのフキモノ

を見落してはならないのであります。更に観察を進めて

ラツバは二つ、テツボウは三つ、2 と 3 で 5

である事を掴ませて

5 を二つの整数に分ける仕方は
1 と 4 に分けるか、2 と 3 に分けるか

の二つしかない事を呑み込ませて戴きたいのであります。

「ヨイコドモ」三十二頁、三十三頁を開いて下さい。

母の心構 ハネをついて居る子供はと考へて、女の子が二人、
タコを上げて居る子供はと考へて 男の子が三人

女の子から男の子へと考へて、2 と 3 で 5
男の子から女の子へと考へて 3 と 2 で 5。

更に向きを考へて

右向きの子が四人、左向きの子供が一人であるから

右向きの子から左向きの子へと考へて 4 と 1 で 5
左向きの子から右向きの子へと考へて 1 と 4 で 5

と 5 の構成としての二つの分け方を考察せしめ、更に

女の子のハネツキは二人で一つのハネを、ヤツタリ、ウケタリ
して面白く遊ぼうといふのであるから

長き連続への協力精神

となり

男の子のタコアゲは 三人で三つのタコを揚げて居る。三人とも
中々よく揚げて居る。一人でも良く揚らないと面白く遊べない。
愉快！ 愉快！ 愉快！ と三嘆せしめて

技術練成への協力精神

の必要性をしみじみ感ぜしめるところに、この繪の數學的魅力があ
るのであります。

「ヨミカタ」四十頁、四十一頁を開いて下さい

母の心構 この繪と、この文章とを通しての、數學的考察は、
二人の兄弟の協力で

一つのハコニハを作つた事

そして

一番目に二つの山を造り、二番目に一つの川を造り、三番目に造
つた一つの山に五本の木を植ゑ、二つの山に澤山のコケを付け、
四番目に造つた一つの川に澤山の石と、一つの橋をかけて
スツカリデキテカラ

とあるので出来たハコニハを見ると家が三つ見える。そこで

五番目に三つの家を造つて
その一つのハコニハを完成した

といふ事であり、更にこれに

数理的處理

を加へて

川は一つ、橋は一つ

山は二つ

家は三軒

木は五本

コケとイシとは澤山

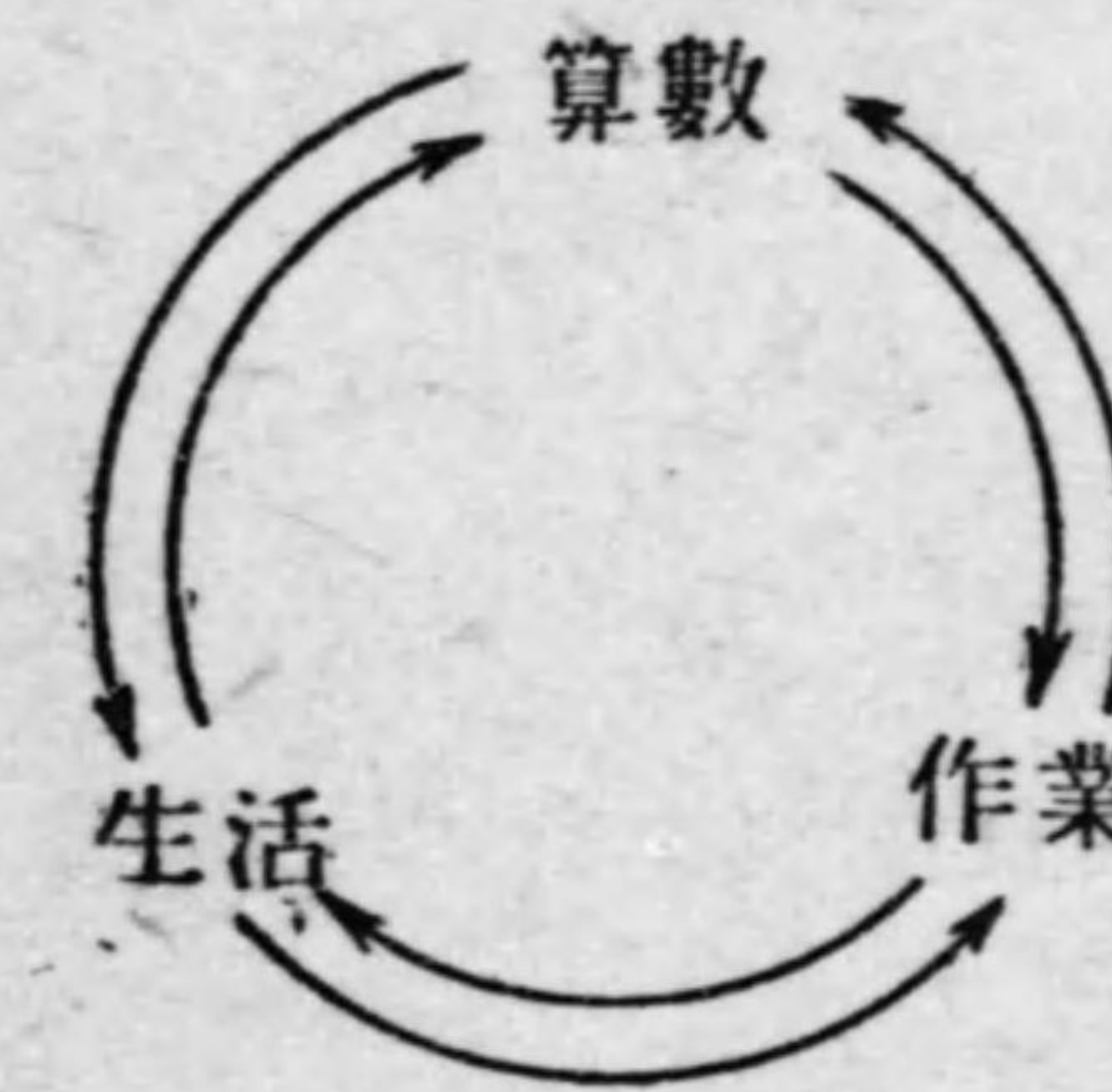
といふ様に仕向けて戴きたいのであります。

1 から 5 までの数の構成

に

整理を加へて

母の心構 人がこの世に生きてゐる以上



生活をはなれての作業はなく
作業をはなれての生活はない

又人がこの世に生きてゐる以上

作業をはなれての算数はなく
算数をはなれての作業はない

又人がこの世に生きてゐる以上

算数をはなれての生活はなく
生活をはなれての算数はない

のであります。世には

生活するとか **作業する**とか

いふ事を算數教育に取り入れて

作業教育とか **生活算數**とか

いつて、サモ新しい數學でも産れ出たかの様に考へてゐる人もある様で
すが、決して新しい數學ではないのであります。

國民學校の新發足が、凡ての日本人をして、現下最も要求される

立派な日本人

に作り上げようとするにある以上『ヨイコドモ』といはず、『ヨミカタ』といはず『エノホン』といはず……それ等のうちに表はれる

數 生 活

によつて、立派に數の構成が學び得られる筈である。

自分はこの考への下に

ヨイコドモ と ヨミカタ の 二冊

を取つたのですが、この二冊で完全に學び得られる事を知つて國家の爲め衷心から喜んだ次第であります。

世には一から十までの數、特に一から五までの數を輕視する人があります。だが、ここまで筆を進めての痛切の感じは

人生の生活か 人生の作業か

寧ろこの一から五までの數生活の繰り返へしによつて、なされて居る事の如何に多きかといふ事にあつたのであります。

日本、滿洲、中華民國が固き締盟を結んで、東亞の歴史に一新紀元を劃してから滿一年、今日はその意義深き一周年當日としての昭和十六年十一月三十日であります。自分は今この日を記念して

東亞共榮圈建設 の 數學的意義

に就て述べて見たいと思ふのであります。

指導者としての日本

の

— つ

を出發點として朝鮮の隣りに滿洲國があります。

協力者としての滿洲

の

— つ

その滿洲國を立派にもり立て、かたき握手の下に相提携する事は一から二へ、といふ數の發展に正しく従つたものであり

協力の一步

であつたのであります。そして滿洲の隣り、日本のお向ふの中華民國の建設

へとその巨歩を進め、茲に一周年を迎へたのでありますが、この

三つを打つて一丸として

更に佛印へ、泰へ、蘭印へと隣りから隣りへ、お向からお向へと進めて行くところに、東亞共榮圈建設の數學的意義があるのであります。そして、これは、決してラクの事ではない、至難中の至難事であるけれども、世界に比類なき

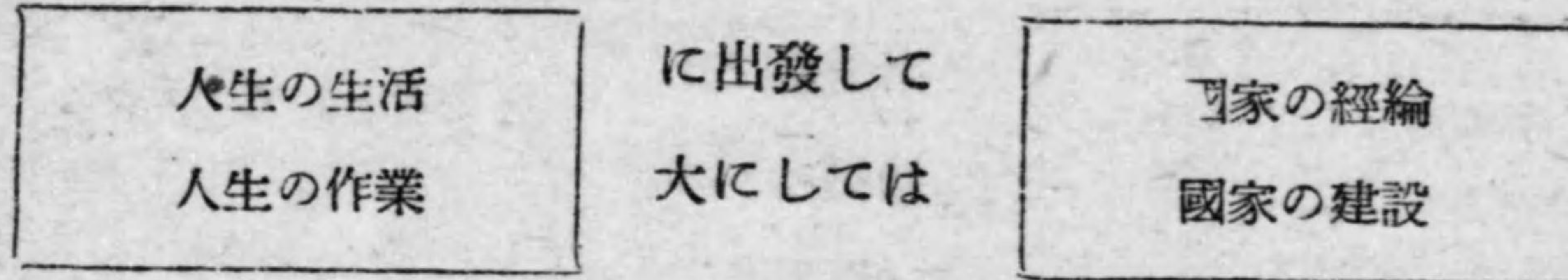
天壤無窮 萬世一系

果しなき連續せる

—

を死守しなくてはならないのであります。

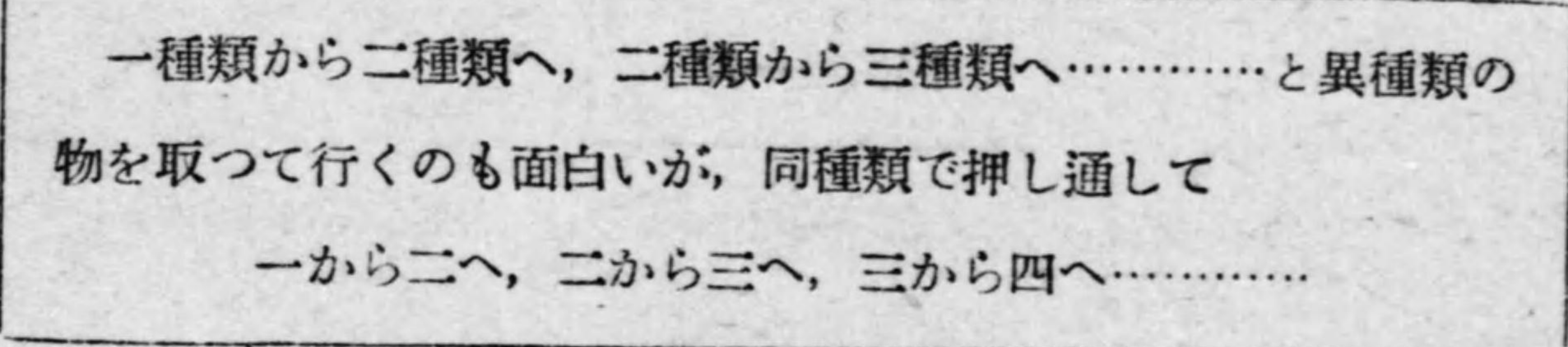
かういふ様に小にしては



に至るまで一から十——特に一から五までの數生活に支配されるのであるから、更に一から五までの數の構成に整理を加へて

その働きを偉大ならしめる

事を計らなくてはならないのであります。そしてここに大切な事は



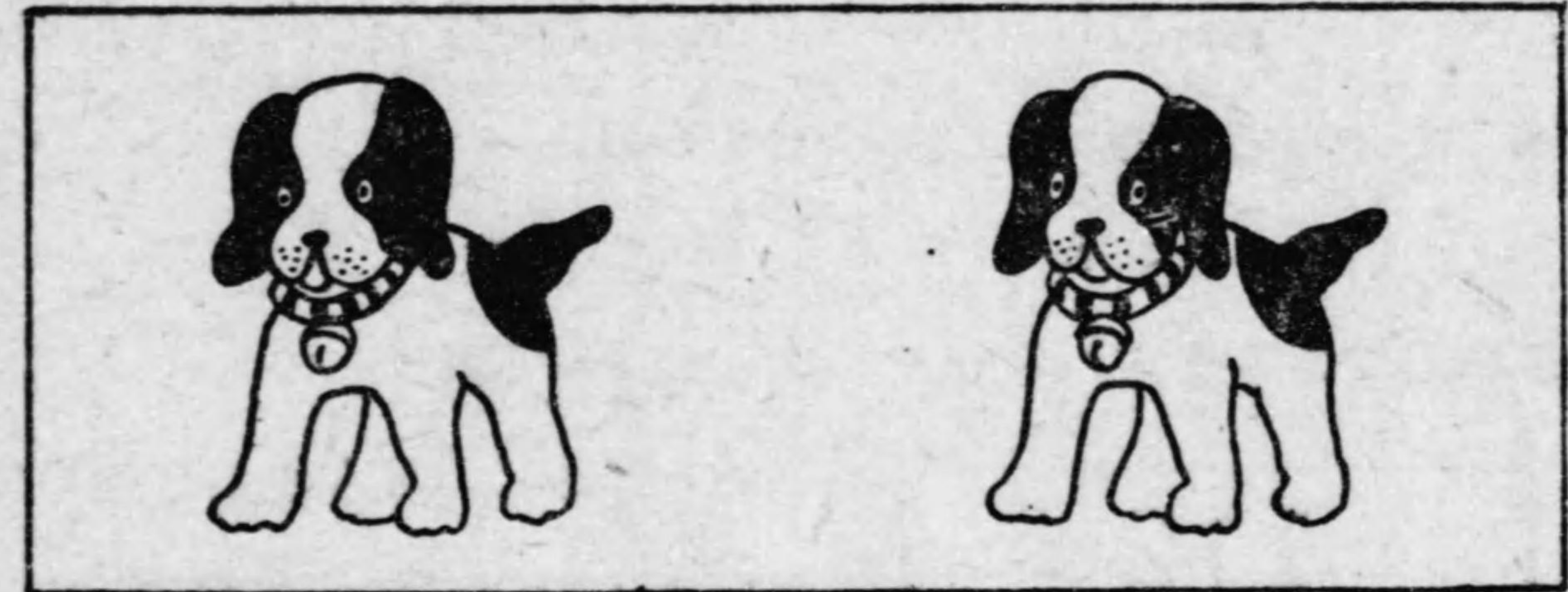
とやつて行くのも面白いといふ事でありませう。自分が今运算數講習會で使つた 犬のおモチャ が與へた あのウナヅキは

單純の持つウナヅキ

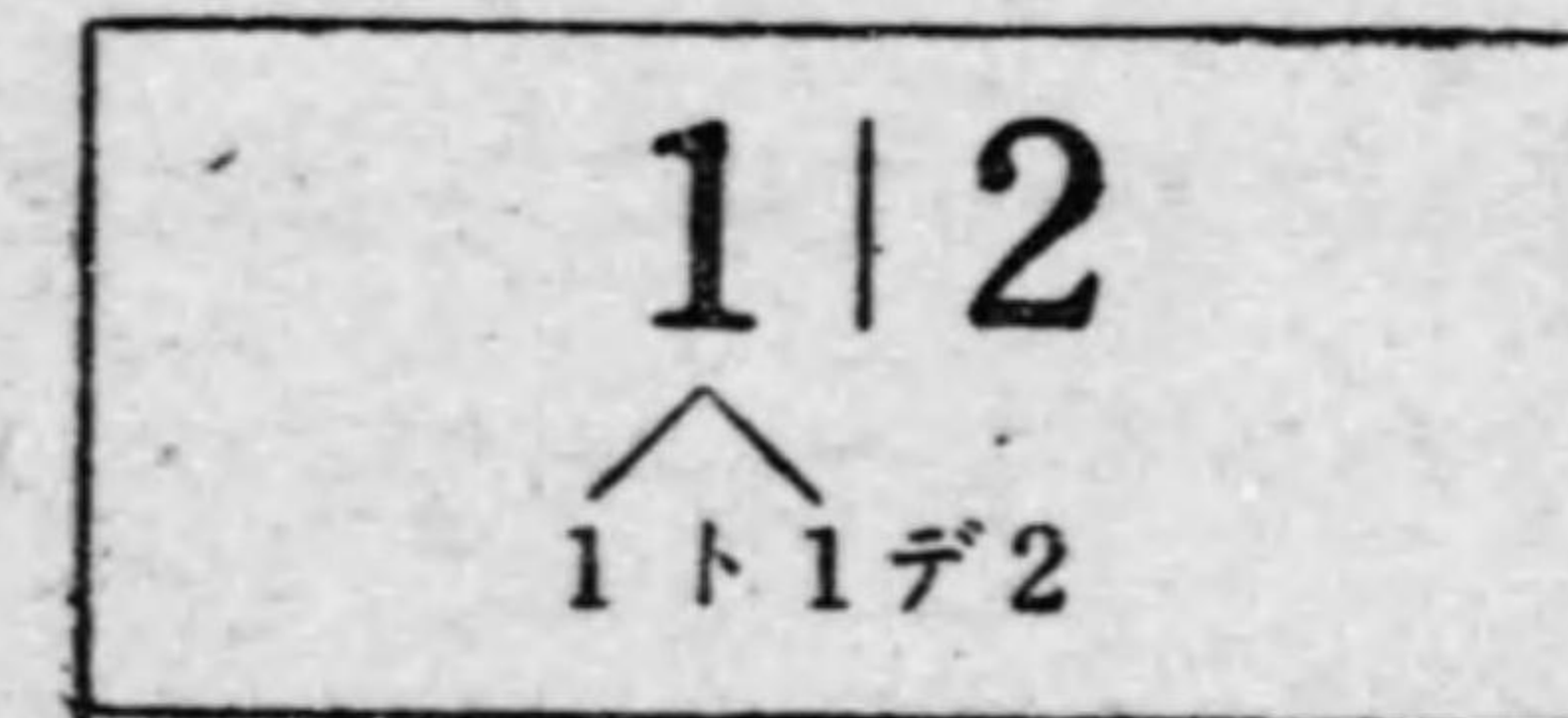
ともいふべきものでは無いでせうか。かういふ意味で犬のおモチャを取る事としたのでありますが、お母さんが實際やられるには犬とは限らずに、實物なり、おモチャなり何でも良いのであります。



前向きの一匹の犬が居るところへ、一匹の犬が飛んで来て



前向きに行儀よく並んで二匹になつたのであるから 1 と 1 で 2 であるのであります。そしてこれを次の如く表はして



お母さんは親心をこめて、音吐朗々と何回も何回も 1 と 1 で 2, 1 と 1 で 2, 1 と 1 で 2, ……………

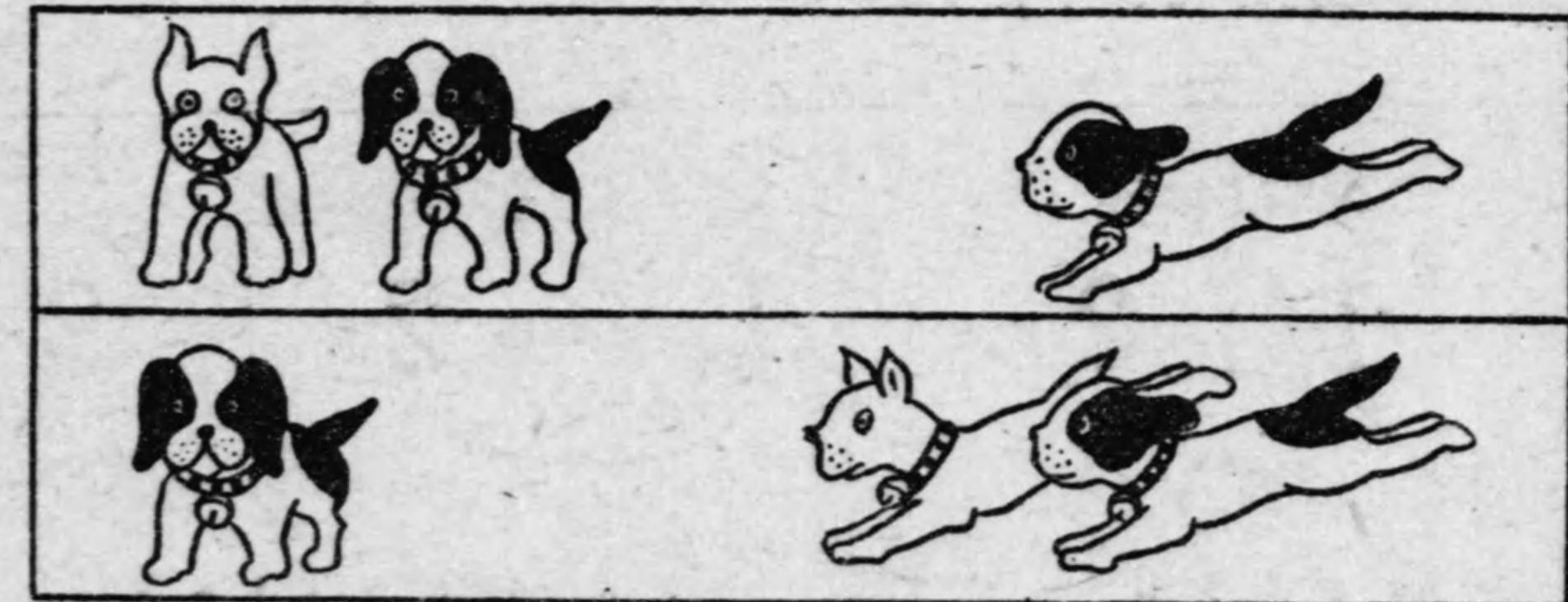
と唱へるのであります。何回も何回も

1 と 1 で 2, 1 と 1 で 2, 1 と 1 で 2, ……………

と唱へてみると自然にお子さんもついて来て、お母さんと一緒に

1 と 1 で 2, 1 と 1 で 2, 1 と 1 で 2, ……………

と合唱される事となるのであります。

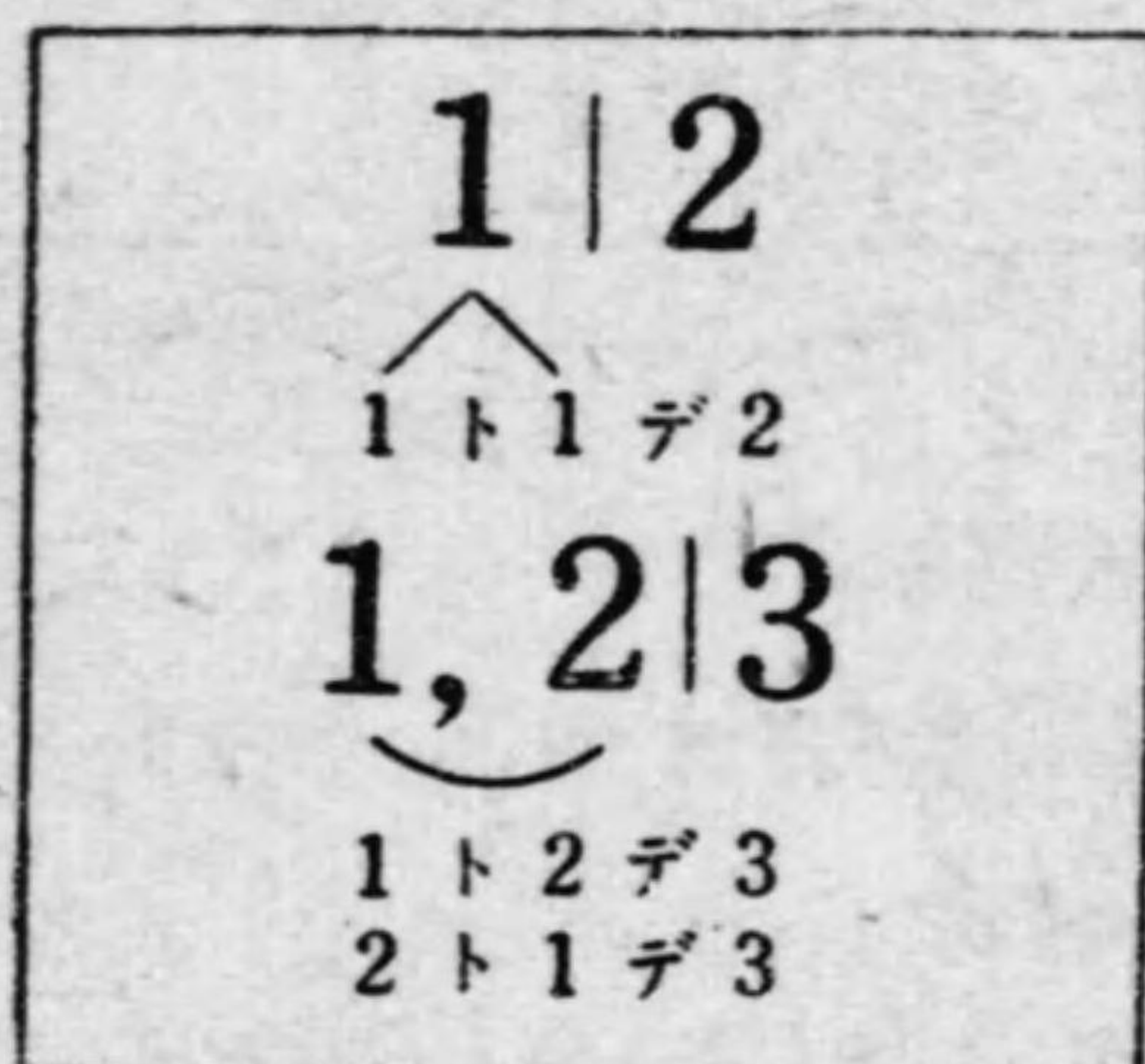


前向きの一匹の犬が居るところへ、一匹の犬が飛んで来て三匹にな

り、又一匹の犬が居るところへ、二匹の犬が飛んで来て、前向きに行儀よく並んで三匹になつたのであるから

2 と 1 で 3, 1 と 2 で 3

であるのであります。そしてこれを次の如く表はして、

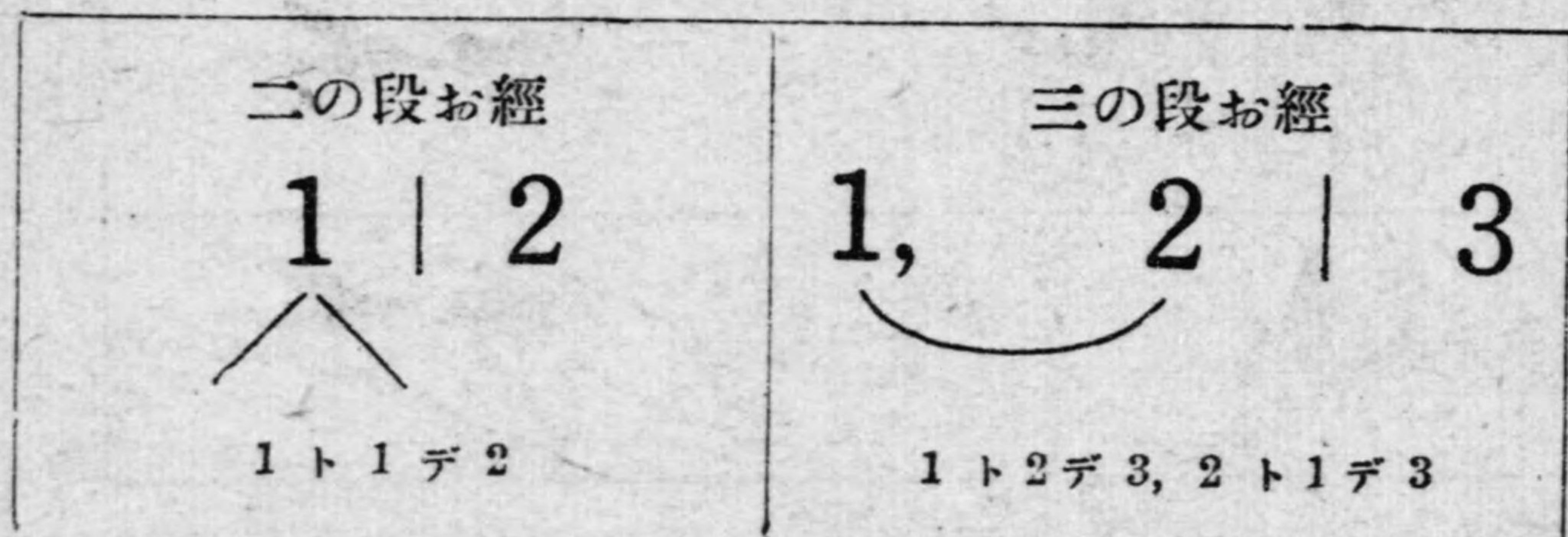


1. から始めて、又も親心を込めて
1 と 1 で 2, 1 と 2 で 3, 2 と 1
で 3.....
と何回も何回も唱へるのであります。
何回も何回も唱へて居ると自然にお
子さんもついて来てお母さんと一緒

に合唱される事となるのであります。かういふ様に 2 の構成から 3 の構成へ、3 の構成から 4 の構成へとキチンと系統立てる時、發展的考へ方の偉力は

1 から 20 までの数の構成

に迄及ばしめるのであります。



<p>四の段お經</p> <p>1, 2, 3 4</p> <p>1トデ4, 3ト1デ4 2ト2デ4</p>	<p>2ト5デ7 5ト2デ7 3ト4デ7 4ト3デ7</p>
<p>五の段お經</p> <p>1, 2, 3, 4 5</p> <p>1ト4デ5 4ト1デ5 2ト3デ5 3ト2デ5</p>	<p>八の段お經</p> <p>1, 2, 3, 4, 5, 6, 7 8</p> <p>1ト7デ8 7ト1デ8 2ト6デ8 6ト2デ8 3ト5デ8 5ト3デ8 4ト4デ8</p>
<p>六の段お經</p> <p>1, 2, 3, 4, 5, 6</p> <p>1ト5デ6 5ト1デ6 2ト4デ6 4ト2デ6 3ト3デ6</p>	<p>九の段お經</p> <p>1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 9</p> <p>1ト8デ9 8ト1デ9 2ト7デ9 7ト2デ9 3ト6デ9 6ト3デ9 4ト5デ9 5ト4デ9</p>
<p>七の段お經</p> <p>1, 2, 3, 4, 5, 6, 7</p> <p>1ト6デ7 6ト1デ7</p>	<p>十の段お經</p> <p>1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9 10</p> <p>1ト9デ10 9ト1デ10 2ト8デ10 8ト2デ10 3ト7デ10 7ト3デ10 4ト6デ10 6ト4デ10 5ト5デ10</p>

十一の段お經

1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10 | 11.

1 ト 10 デ 11	10 ト 1 デ 11
*2 ト 9 デ 11	9 ト 2 デ 11
*3 ト 8 デ 11	8 ト 3 デ 11
*4 ト 7 デ 11	7 ト 4 デ 11
*5 ト 6 デ 11	6 ト 5 デ 11

十二の段お經

1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11 | 12

3ト9デ12, -9ト3デ12

1 ト 11 デ 12	11 ト 1 デ 12
2 ト 10 デ 12	10 ト 2 デ 12
*3 ト 9 デ 12	9 ト 3 デ 12
*4 ト 8 デ 12	8 ト 4 デ 12
*5 ト 7 デ 12	7 ト 5 デ 12
*6 ト 6 デ 12	

十三の段お經

1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12 | 13

4ト9デ13, -9ト4デ13

1 ト 12 デ 13	12 ト 1 デ 13
2 ト 11 デ 13	11 ト 2 デ 13
3 ト 10 デ 13	10 ト 3 デ 13
*4 ト 9 デ 13	9 ト 4 デ 13
*5 ト 8 デ 13	8 ト 5 デ 13
*6 ト 7 デ 13	7 ト 6 デ 13

十四の段お經

1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13 | 14

3ト11デ14, 11ト3デ14

1 ト 13 デ 14	13 ト 1 デ 14
2 ト 12 デ 14	12 ト 2 デ 14
3 ト 11 デ 14	11 ト 3 デ 14
4 ト 10 デ 14	10 ト 4 デ 14
*5 ト 9 デ 14	9 ト 5 デ 14
*6 ト 8 デ 14	8 ト 6 デ 14
*7 ト 7 デ 14	

十五の段お經

1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14|15

4ト11デ15, 11ト4デ15

1ト14デ15	14ト1デ15
2ト13デ15	13ト2デ15
3ト12デ15	12ト3デ15
4ト11デ15	11ト4デ15
5ト10デ15	10ト5デ15
*6ト9デ15	9ト6デ15
*7ト8デ15	8ト7デ15

十六の段お經

1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15|16

3ト13デ16, 13ト3デ16

1ト15デ16	15ト1デ16
2ト14デ16	14ト2デ16
3ト13デ16	13ト3デ16
4ト12デ16	12ト4デ16
5ト11デ16	11ト5デ16
6ト10デ16	10ト6デ16
*7ト9デ16	9ト7デ16
*8ト8デ16	

十七の段お經

1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16|17

4ト13デ17, 13ト4デ17

1ト16デ17	16ト1デ17
2ト15デ17	15ト2デ17
3ト14デ17	14ト3デ17
4ト13デ17	13ト4デ17
5ト12デ17	12ト5デ17
6ト11デ17	11ト6デ17
7ト10デ17	10ト7デ17
*8ト9デ17	9ト8デ17

十八の段お經

1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17|18

6ト12デ18, 12ト6デ18

1ト17デ18	17ト1デ18
2ト16デ18	16ト2デ18
3ト15デ18	15ト3デ18
4ト14デ18	14ト4デ18
5ト13デ18	13ト5デ18
6ト12デ18	12ト6デ18
7ト11デ18	11ト7デ18
8ト10デ18	10ト8デ18
*9ト9デ18	

十九の段お經

1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18|19

1 ト 18 デ 19	18 ト 1 デ 19
2 ト 17 デ 19	17 ト 2 デ 19
3 ト 16 デ 19	16 ト 3 デ 19
4 ト 15 デ 19	15 ト 4 デ 19
5 ト 14 デ 19	14 ト 5 デ 19
6 ト 13 デ 19	13 ト 6 デ 19
7 ト 12 デ 19	12 ト 7 デ 19
8 ト 11 デ 19	11 ト 8 デ 19
9 ト 10 デ 19	10 ト 9 デ 19

二十の段お經

2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, |20

1 ト 19 デ 20	19 ト 1 デ 20
2 ト 18 デ 20	18 ト 2 デ 20
3 ト 17 デ 20	17 ト 3 デ 20
4 ト 16 デ 20	16 ト 4 デ 20
5 ト 15 デ 20	15 ト 5 デ 20
6 ト 14 デ 20	14 ト 6 デ 20
7 ト 13 デ 20	13 ト 7 デ 20
8 ト 12 デ 20	12 ト 8 デ 20
9 ト 11 デ 20	11 ト 9 デ 20
10 ト 10 デ 20	

母の心構 今度新しく出発を見た國定算數書「カズノホン」に

於ては

一から十までの加減をシツカリさせる事が、一年の算數の中心であり、十一から二十までの加減をシツカリさせる事が二年前期の算數の中心をなす事となつた。

のでありますから、アハテル事はないのです。それを世のお母さんは、例へば

7 + 5 といふ加法があります。7 足す 5 デ幾つ?

と聞きます。お子さんがすぐいへないで考へて居ます。お母さんはお前さん お前さんマダなの、マダ出來ないと、ヂリヂリして來てノロマだグズだと聲さへ荒げて催促します。

お母さんはまだしも、お父さんに至つては、ポカンと來るのです。これが一年生を持つ日本の津々浦々の家庭悲劇であります。これでは算數が嫌ひにこそなれ決して好きにはならないのであります。ではどうすれば良いかといふ事に就て一番大切な、お母さんの心構を提言致します。

學校のやり方は7 足す 5 は幾つと聞くのですが、家庭に於てお母さんのやり方としては、7 足す 5 は幾つと、お子さんに聞いてはいけないといふ事があります。

聞けばこそノロマ、グズが飛び出したり、ポカンと來たりするの
す。聞くから起る事ですから、津々浦々に毎年繰返へされるこ
の全日本の家庭悲劇を絶滅するには聞かないに限るのであります。

7 足す5で1と答へたり、2 と答へたり、3 と答へたり、4 と答
へたり、5 と答へたり、6 と答へたり、7 と答へたり、8 と答へ
たり、9 と答へたり、10 と答へたりするお子さんは一人も無い。

と思ふのでありまして、若しあつたとすれば、ノロマ、グズを通り
越して低脳白痴であります。又

20 と答へたり、19 と答へたり、18 と答へたり 17 と答へたり、
16と答へたり、15 と答へたり、14 と答へたり、するお子さんも
恐らく無い。

と思ふのであります。そこでノロマであり、グズであるお子さんは

11 といつたり、12 といつたり、13 といつたり

するのでありまして、この三つより答は無いのであります。そして

11 と答へたお子さんは × となり
12 と答へたお子さんは ○ となり
13 と答へたお子さんは × となる

といふのが一般の現状であります。だが皆さん

11 と答へたり、13 と答へたお子さんは不運にも×を戴いたので
あり

12 と答へたお子さんは幸運にも○を戴いたのではありませんか

恰も弓の稽古をする時に、百本の中何れか一本のマグレ當りから
始まつて、次に二本のマグレ當りとなり、三本、四本……と次第に
そのマグレ當りの數を増し、四十九本となり、五十本となり、……
六十本となり七十本、八十本……九十九本ともなれば、ハヅレター
一本は「アア惜しい」といふ感じさへ與へる様なものであるが、日本
の海軍の父、東郷元帥は、このマグレ當り精神を改めて、

一 發 必 中 精 神

を以てしたのであります。加法の練習も亦マグレ當りから出發する
事を全く改めて、一發必中主義による事を切望する次第であります。

お子さんが 11 と答へた時、それは一つ遠慮したねといひ聞かせ
13 と答へた時、それは一つ懲ばつたねといひ聞かせる

様にすれば、7 と5では 12 でなくてはならない事が、ホントにシ
ツカリお子さんのアタマに這入り込むのであつて、11 と答へても
13 と答へても、何も無造作に×點になるべき理由は少しも無いの
であるが、これは數學に堪能なお母さんならば兎に角、一般のお母
さんにここ迄要求するのは無理といふものであります。それでは良
い仕方がないかといふと、あるのであります。

7 と 5 で 12, 7 と 5 で 12, 7 と 5 で 12,……………
 ナムアミダブツ ナムアミダブツ ナムアミダブツ……………
 ナムミヤウハウレンゲケウ ナムミヤウハウレンゲケウ ナムミ
 ヤウハウレンゲケウ……………

これが算數お經の起りであります。お母さんが若しお炊事の時、お裁縫の時、お洗濯の時、この算數お經を時に觸れ折に際して音吐朗々とやるのです。子供は覚える事は早いもので、お母さんによつて、この算數お經が、全日本の家庭で朗誦された時、學校の先生が教場で 7 と 5 で幾つと聞かれた時にその學級の全生徒によつて電擊的に而かも力强き聲の下に

十 二 ツ ！

と一齊に答へられるに至るのであります。でありますから先づーから二十までの加法を順序正しく

全卷の算數お經

に仕組んで、これをお母さんの口によつて音吐朗々と朗誦される時、加法九九は親心をこめての、お母さんの力によつて

お子さんのアタマにシツカリとコピリ付くに至る

でありませう。何といつても、

子供の時にムジャキに覺えた事は一生であります。

母の心構 三ヶ條

- 一 スバヤイのとノロマ
- 二 ゴチャゴチャからキチントへ
キチントからゴチャゴチャへ
- 三 この九九 このお經こそが算數の基礎工事

十ヶ條も二十ヶ條もあつたのでは、堂々とはなるかも知れないがこれを実行するとなると仲々大變であります。多くの心構のうちから、少くもこれだけはといふ事になれば、

三つか 四つか 五つ

が適當となるのであります。難しい文字を使へば、これ亦堂々たるものにはなりません。その意味を取るに骨が折れます。

「スバヤイ、ノロマ」「ゴチャゴチャ、キチント」

は私ども日本人には説明抜きでわかる所の根柢語であります。本書を通して、この三ヶ條の意味をシツカリ掴んで戴ければそれでよいのであります。

第二 6 から 10 までの数の構成

母の心構 1 から 5 までの数の構成を『ヨイコドモ』『ヨミカタ』を通して

1 から 2 へ、2 から 3 へ、3 から 4 へ、4 から 5 へとキチント學び進み、更に犬のおモチヤの繪によつて、これに整理を加へ更に更にこれに一步を進めて

算 數 お 經

となり、この餘勢をかりて、1 から 20 までの

全卷の算數お經

を得たのであります。全天下のお母さんは、親ならではの親心を込めて、母の心構三ヶ條の第三條

この九九 このお經こそが算數の基礎工事

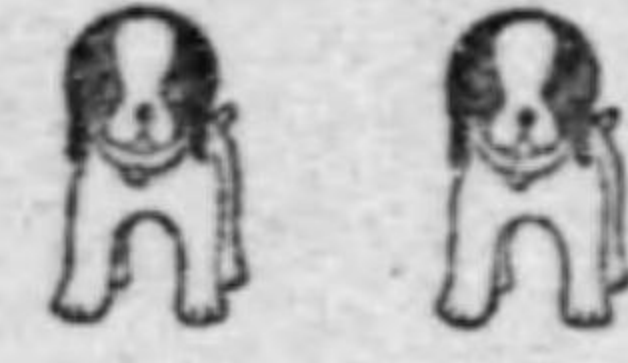


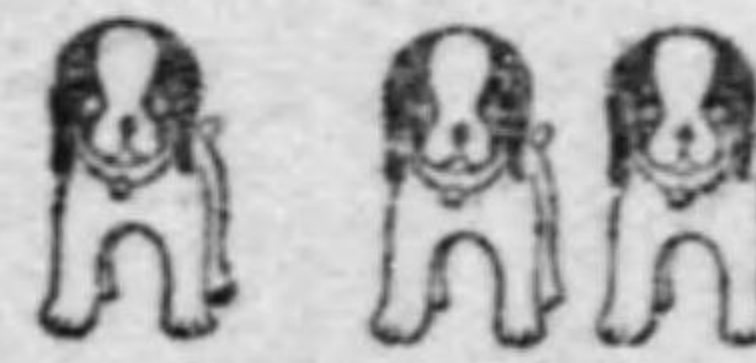
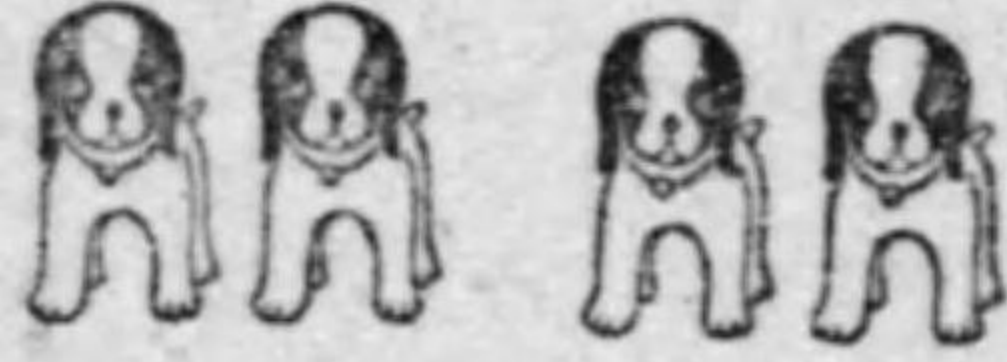


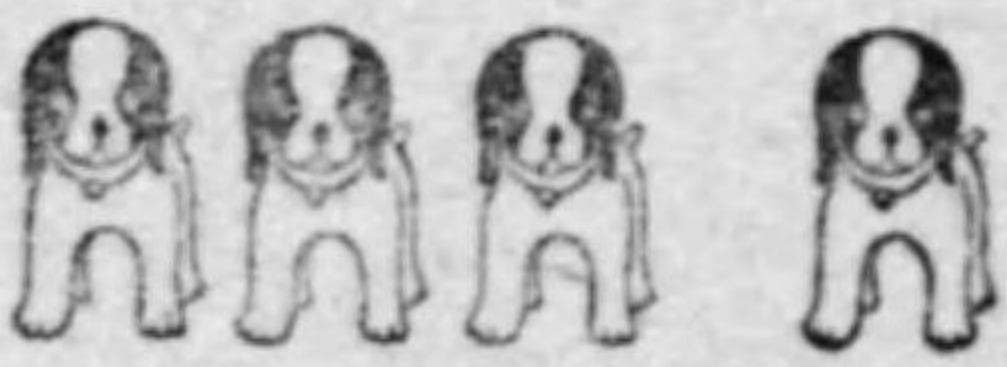

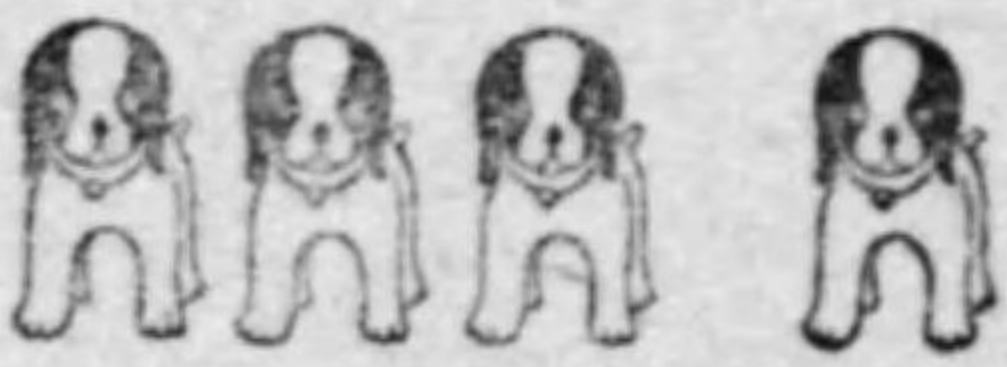

の實行により、一年のお子さんを持つ日本の津々浦々の家庭の悲劇を一掃し全卷の算數お經が唱へられた時、兄さんも加はり、姉さんも加はり、五つ、三つの弟や妹も加はつて、こゝに一家團樂の合唱となり、ホガラカなる家庭風景を實現する事となるのであります。

かういふ様にして、築き上げられた全天下のお子さんにより、日本が背負つて立たれた時

大東亞共榮國といふ極樂淨土建設

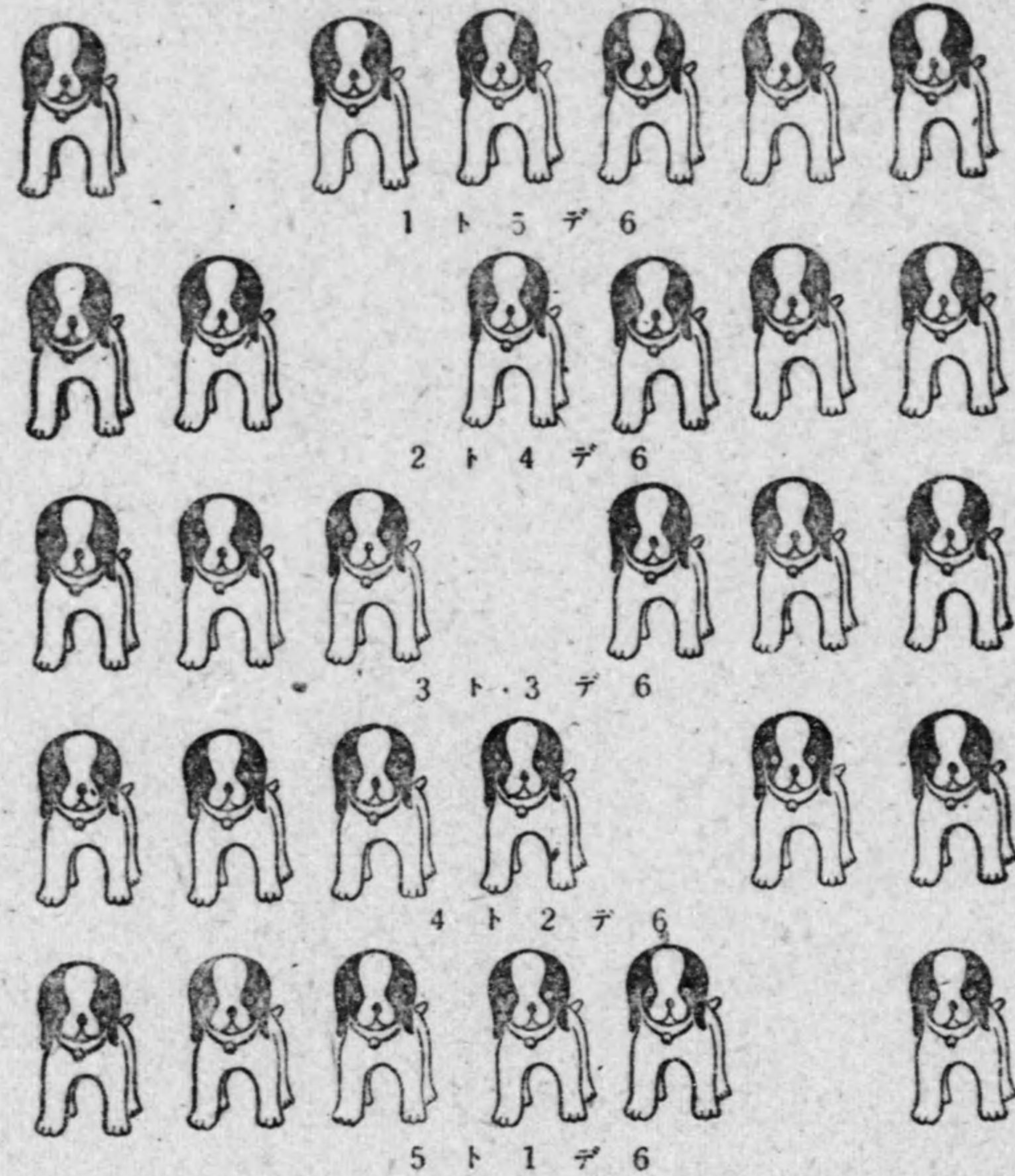
の偉業完遂を見るのだといふ確信の下に、この算數お經をやつて戴きたいのであります。

かういふ意味で算數お經の家庭朗誦と相俟つて、6 から 10 までの数の構成を犬のおモチヤによつてやる事と致します。そしてここに大切なる事はイキナリ 6 から始めずに數の出發としての 1 から始めるといふ事でありませう。

二の段お經	四の段お經	五の段お經
 1 ト 1 デ 2	 1 ト 3 デ 4	 1 ト 4 デ 5
三の段お經  1 ト 2 デ 3	 2 ト 2 デ 4	 2 ト 3 デ 5
 2 ト 1 デ 3	 3 ト 1 デ 4	 3 ト 2 デ 5
	 3 ト 1 デ 4	 4 ト 1 デ 5

ここで 6 の構成へと一步を進めるのであります。

六の構成—六の段お経

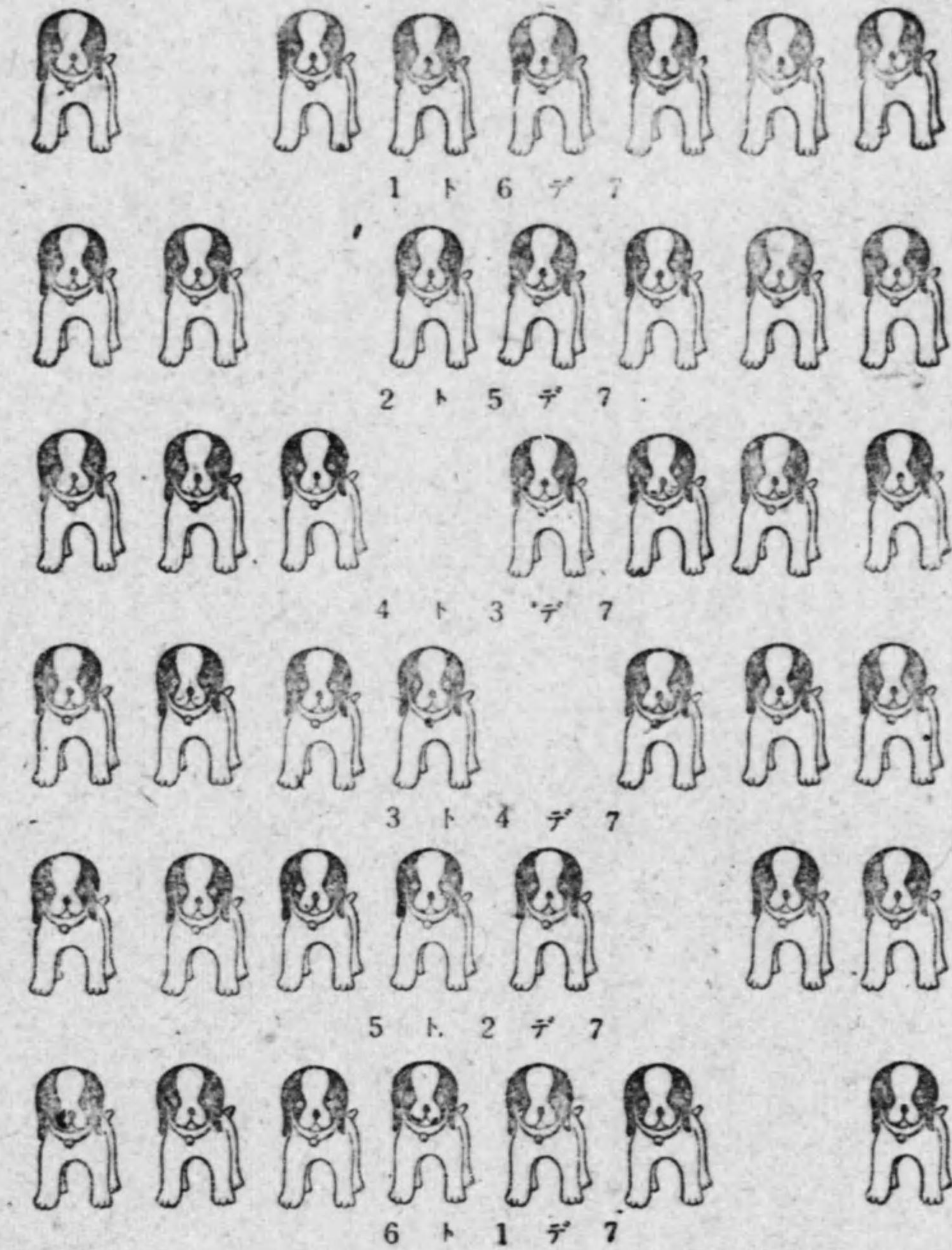


母の心構 六から七、七から八、八から九、九から十へとシツ
カリ数の構成を呑み込ませるのでありますが、そ

六、七、八、九、十 は七重、八重、九重、

といふ言葉もある様に、子供にとつても、大人にとつても、数へな
くは幾つあるかを確實に知る事は出来ないといふ事があります。
そして六の構成は一つと五つに分けるか、二つと四つに分けるか、
三つと三つに分けるか、四つと二つに分けるか、五つと一つに分け
るかの五通りより無いのであります。

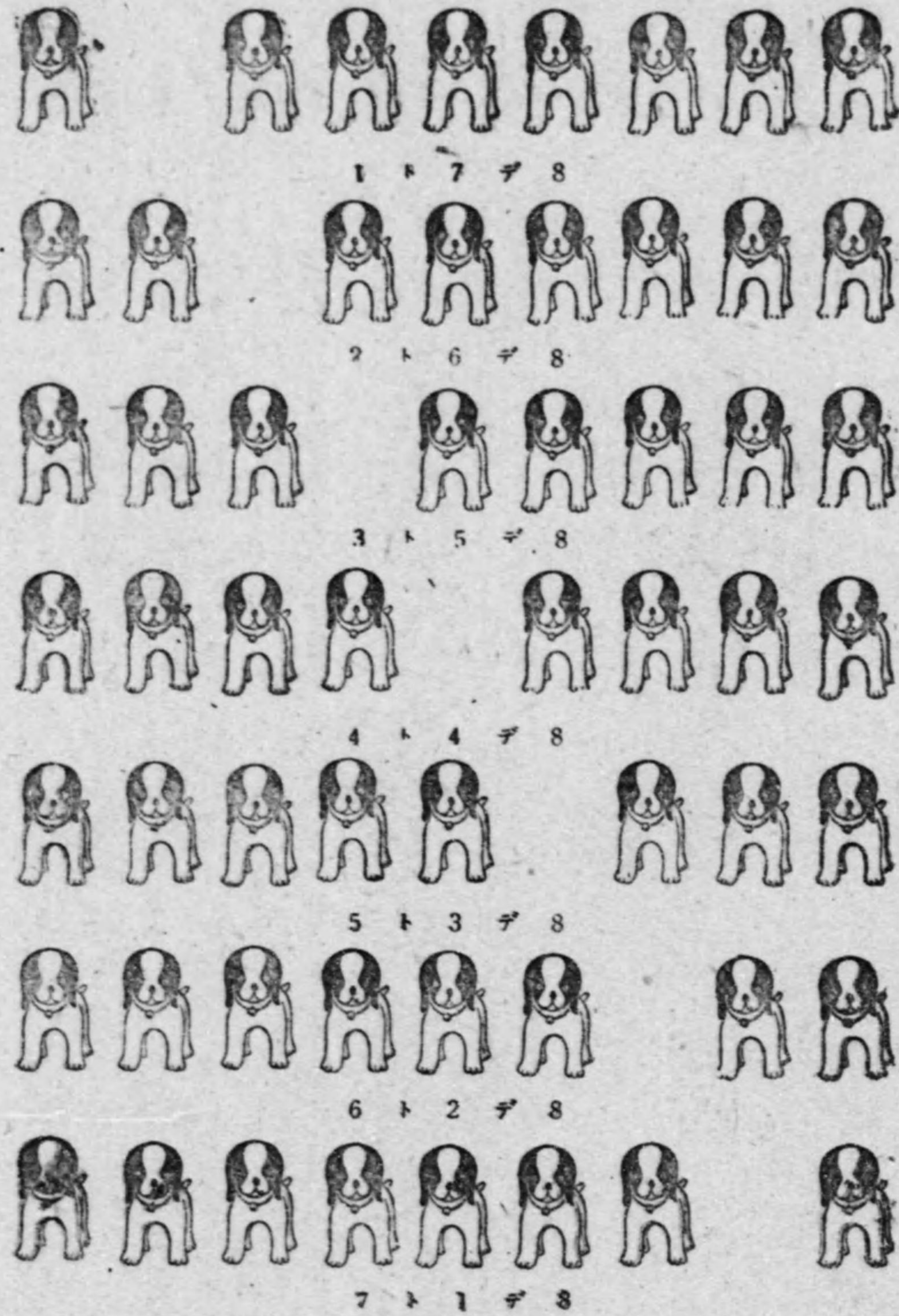
七の構成—七の段お経



母の心構 七の分け方は凡てで六通りであります。そして、こ
こで注意して戴きたい事は、七の分け方としては

2 と 5 か、3 と 4 か、4 と 3 か、5 と 2 か
に分けるのが一番わかり良いといふ事をしつかり掴かませて戴きた
いのであります。

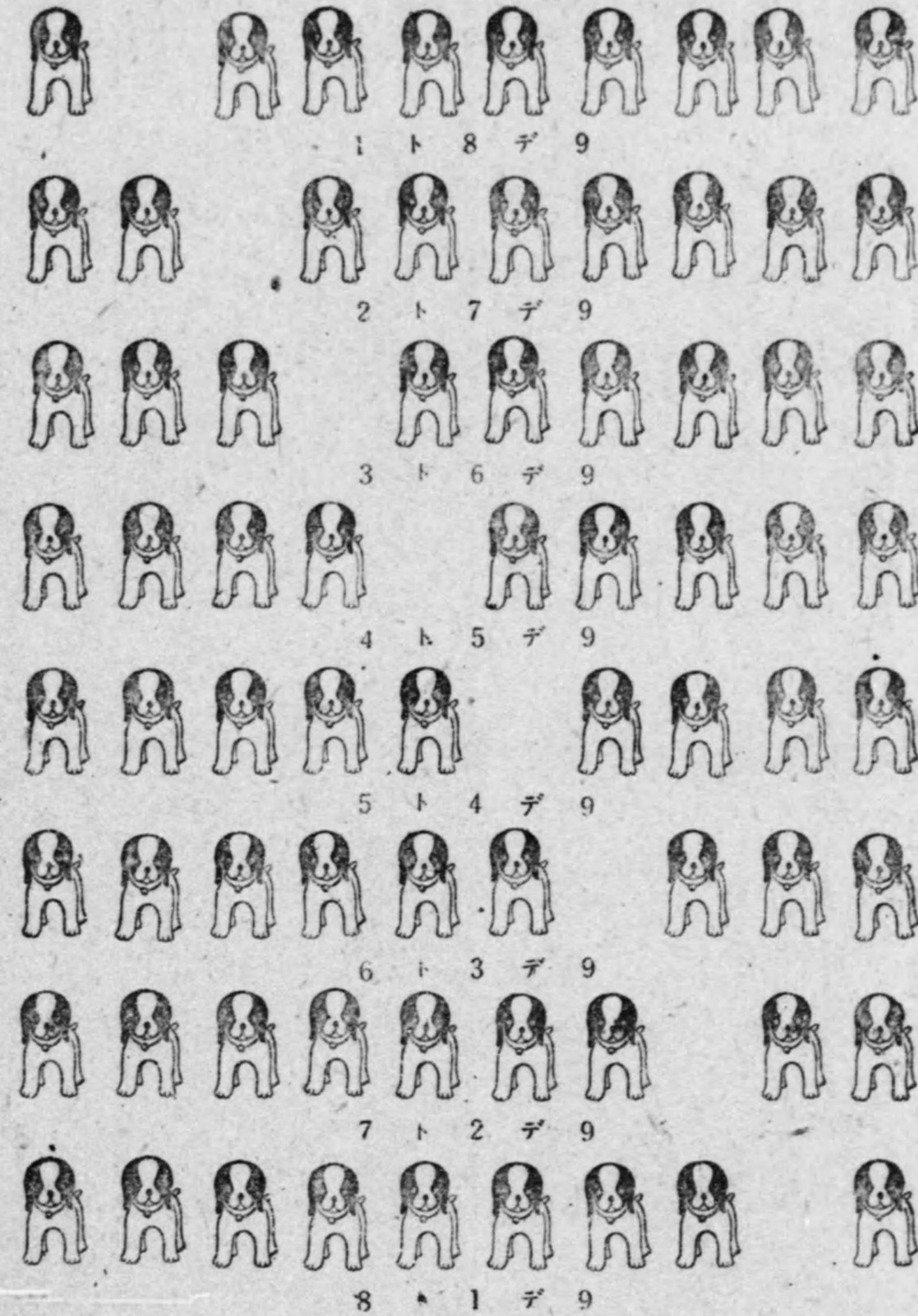
八の構成—八の段お経



母の心構 八の分け方は凡てで七通りであります。そして、そのうち

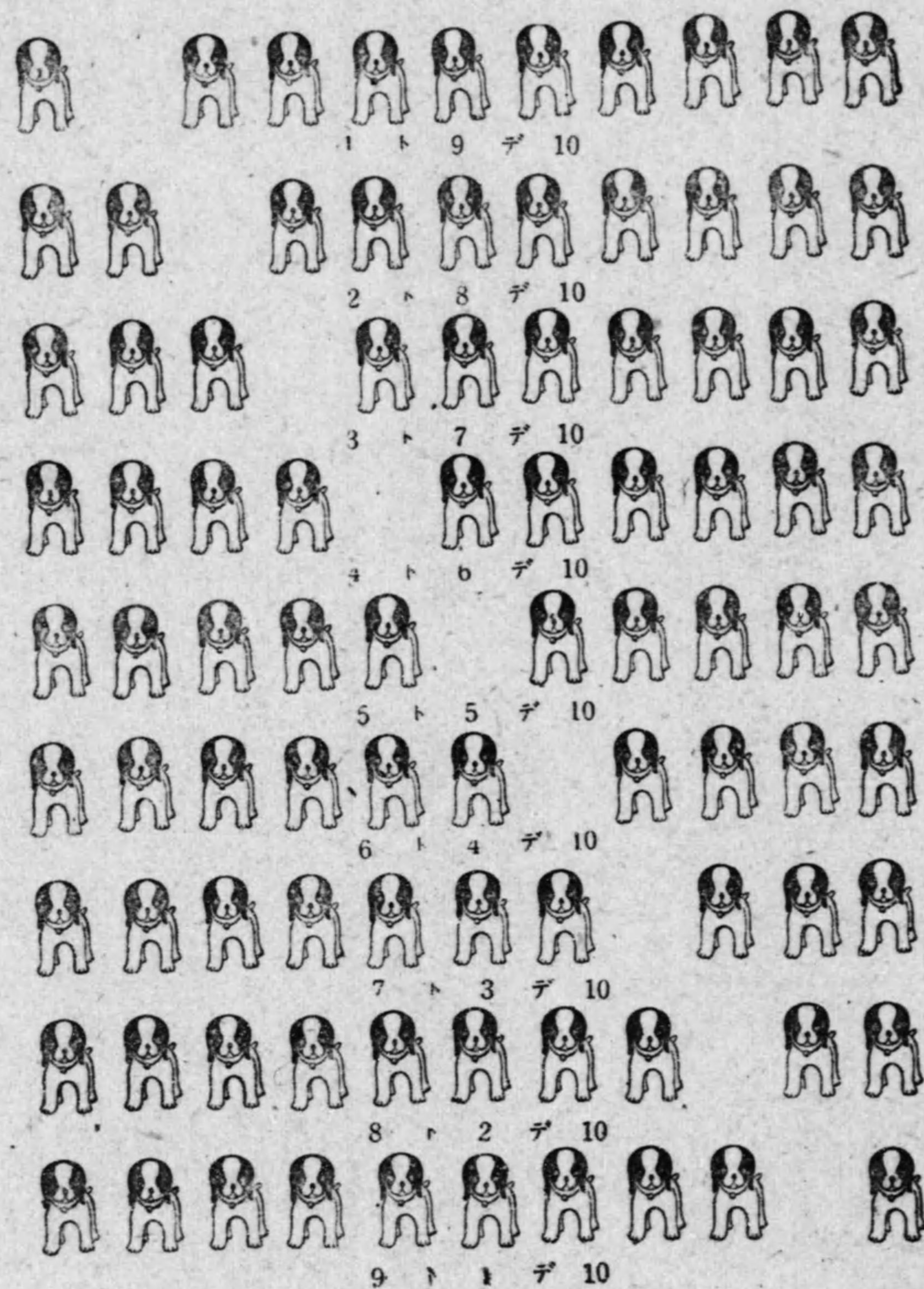
3 と 5 か、4 と 4 か、5 と 3
に分けるのが一番わかり良い事をシツカリ掴ませて戴きたいのであります。

九の構成—九の段お経



母の心構 九の分け方は凡てで八通りあります。そして、そのうち4と5か、5と4に分けるのが一番わかり良い事をシツカリ掴ませて戴きたいのであります。

十の構成一十の段お経



母の心構 十の分け方は凡てで九通りあります。そして、そのうち5と5に分ける仕方が一番わかり良い事をシツカリ掴ませて戴きたいのであります。

母の心構 以上のことは、お母さんなり姉さんなりが

桃太郎の話

を、毎晩毎晩繰り返へし繰り返へし、同様の繰り返へしをやつてシツカリした

國民性

を叩き込んだところの、その

コ ツ

に全く従つて、お母さんなり姉さんなりが、そのお子さんの爲に、毎晩毎晩、あきずに、いやがらずに日本科學文化の爲にやられる事を衷心から願ひする次第であります。こんな事がわからないのか、ノロマだグズだと思つたりいはれたりすればこそ、腹も立つのであります

この子は、オチツイテ居る

この子は、ユツクリして居る

この子は、ガツチリして居る

といふ様に考へれば腹も立たなくなり、更に

この子は、泰然自若堂々たるものだ

この子は、大器晩成である

といふ様に考へれば腹の立つどころではない、親ならではの親心を込めて數に親しみを持たせ得られるわけであります。繰り返へして申上げますが

決して怒つてはいけない

のであります。

6 の 構 成

「ヨイコドモ」二十頁, 二十一頁を開いて下さい。

母の心構 左から右へ一人, 二人, 三人, 四人, 五人, 六人と
数へて

子供が六人

女の子は一人で, 男の子は五人であるから

左から右へと算数お経を稱へて 一人と五人で六人	右から左へと算数お経を稱へて 五人と一人で六人
----------------------------	----------------------------

犬をはさんで

左から右へと算数お経を稱へて 二人と四人で六人	右から左へと算数お経を稱へて 四人と二人で六人
----------------------------	----------------------------

となるのであります。3 と 3 で 6 はこの繪には無いかと, お子さんと一緒に考へて, あつた あつた

後を振りかへつてゐる子が三人, 前を向いてゐる子が三人 三人と三人で六人

ツヨイ子は泣きません。とあるのでこの繪をよく見ると一番終りの子がコロンデゐる。ここにも 5 と 1 で 6, 1 と 5 で 6 の

数の構成 数生活

があるのであります。

7 の 構 成

「ヨミカタ」十四頁, 七十頁, 六十六頁, 六十七頁を開いて下さい。

母の心構 7 の構成は 2 と 5 か, 3 と 4 に分けるのがわかりよいのであります。何れか数へ良い二つを取れば残りは五つであり, 何れか数へ良い五つを取れば残りは二つである事が直ぐわかるのであり, 又何れか数へ良い三つを取れば残りは四つであり, 何れか数へ良い四つを取れば残りは三つである事が直ぐわかるのであつて

アヒルは 後の二羽と前の五羽で七羽 ウサギは 上の三匹と下の四匹で七匹
--

は誰にもすぐ数へられると思ふのであります。

六十六頁, 六十七頁はスズメがオヂイサンをもてなして

踊つてゐるのが二羽 見てゐるのが五羽	で七羽であり, 又	左に四羽 右に三羽	で七羽
-----------------------	-----------	--------------	-----

でこれも亦, 7 を二つに分けるには, 2 と 5 か, 3 と 4 が一番わかり易い事を示すものであります。

8 の 構 成

「ヨイコドモ」一頁と、「ヨミカタ」二十頁を開いて下さい。

母の心構 犬のオモチャを一行に並べて

八の構成——八の段お経

の練習に努めた皆さんは「ヨイコドモ」一頁の様も「ヨミカタ」二十頁の繪も

4 と 4 か, 3 と 5

の二つに分けるのが、一番分りよいといふ事に氣附かれる事と思ひます。

「ヨイコドモ」二十二頁, 二十三頁を開いて下さい。

母の心構 澤山の旗, 大勢の人は仲々數へられませんが

大きなダルマ

が

一つ, 二つ, 三つ, 四つ

見えます

子供は

二, 四, 六, 八, で八人

子供が二人づつ元氣よくやつて居ます。

9 の 構 成

「ヨイコドモ」一頁の前を開いて下さい。

母の心構 適當に順序付け, 一つ, 二つ, 三つ,と數へ模様は何れも九つはわかるのであるが, 第 58 頁の犬のオモチャの九の段お経と違つて, 例へば上段左邊の一つから順次を取つて

一と八で九, 二と七で九, 三と六で九, 四と五で九
五と四で九, 六と三で九, 七と二で九, 八と一で九

とやつて行かうとしてもバラバラであり, ゴチャゴチャである爲に仲々らくではありません。そこに

キチントからゴチャゴチャへ
ゴチャゴチャからキチントへ

の

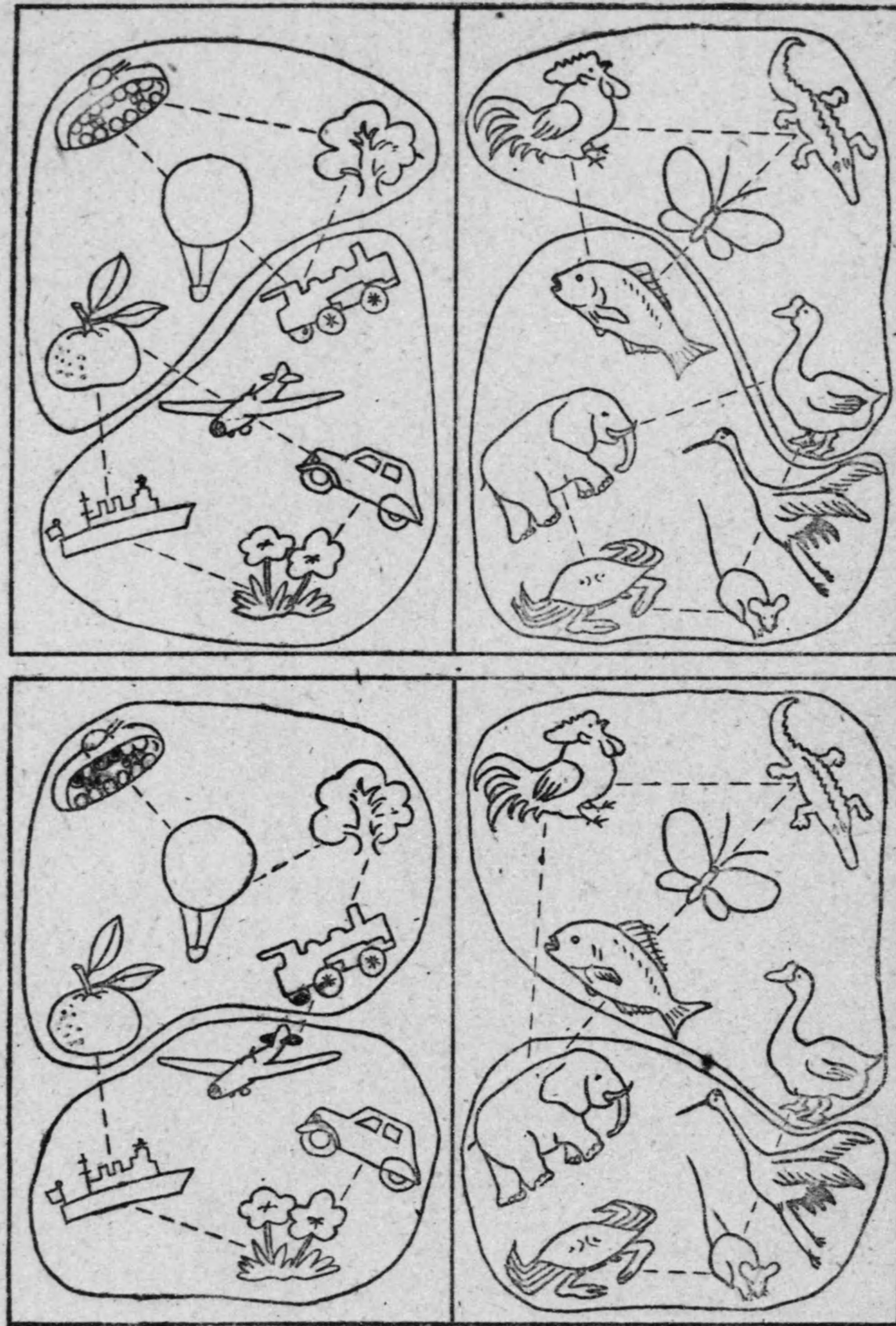
數學的意義

があるのであります。そして九を二つに分けるには

四つと五つに分けるのが一番ラクであり, 自然である

といふ事をわからせて戴きたいのであります。

次に四つと五つの二つに分ける分け方の一つ二つを示します。お母さんはお子さんと一緒になつて, 他の色々の分け方を工夫して戴きたいのであります。



む す び

『ヨイコドモ』『ヨミカタ』に 10 の構成を學ぶべき適當なる繪がなかつたのであるが、11 から 20 までの數の構成も『ヨイコドモ』と『ヨミカタ』からは學び得ないのであります。『カズノホン』からは、3 頁のクレヨンが 11 本、5 頁、6 頁の子供が 12 人、24 頁のタンクが 13 臺、31 頁のコスモスの花が 14、26 頁最下段の三角形の數が赤 5 つと白 9 つで 14、13 頁、14 頁のアヒルとコヒが何れも 15、7 頁 8 頁のツナ引きが 16 等が學ばれるのであるが、これは學校の先生にお任せする事として

家庭のお母さん
としては
算數お經の反復朗誦

と、1 から 20 までの實物なり、オモチャなりを使つての數の正しき數へ方の反復練習をおすすめ致します。そして、この加法九九—算數お經は全數學の出發點としての算數の基礎をなすのでありますから、この基礎が確立された以上

家庭に於けるお母さんの學校への協力

は、學校と家庭とがシツカリと結び付いて二年から三年へ、三年から四年へ……と次第に高學年になるにつれて、生成發展して限りな

444
224

諸君の他不良本
はいつでもお取り
かへいたします

出版會承認
SINCE 1905

昭和十九年四月二十日 初版印刷
昭和十九年五月一日 初版發行 (壹萬部)
母の算數 定價二十錢 賣價二十一錢
特別行爲 稅相當額 一錢

編輯者 大政翼贊會宣傳部 代表者 橋本芳藏
發行者 國民圖書刊行會 代表者 大橋貞雄

東京都神田區駿河臺四丁目二番地
印刷者 共同印刷株式會社 代表者 大橋芳雄 (東京二〇四)
東京都小石川區久堅町百八番地

發行所 國民圖書刊行會
東京都神田區駿河臺四丁目二番地

電話 神田六六六番 六六七番
日本出版會會員番號 第一三八五〇八番

配給元 日本出版配給株式會社
東京都神田區淡路町二丁目九番地

66……むすび

き延び行く力をお子さんに與へる事が出来るのであります。

算數は、皆さんの國家を思ふ一念から又子を思ふ一念から、親心を込めて、お子さん方の
アタマを正確確實
に作り上げて戴いて、その
正確確實のアタマ
を働かせる事によつて、現下日本の非常時を打開し、小にしては昭和維新達成のために、大にしては世界人類平和のために——日本をして米英獨佛に一步を先んじて眞に世界一の國家たらしめるために、皆さんのお子さんに苦勞に苦勞を重ねて學んで戴かねばならない學科であります。

世の中を一步進めるとは發明をし獨創する。

といふ事でありませう。私は全日本のお母さんの力によつて發明し、獨創するの正しき素地をそのお子さんにシツカリ植ゑ付けて戴く事を衷心より切願する次第であります。少し位ノロマといはれ、グズと呼ばれても、この現下の躍進日本が、切實に要求するところの發明獨創のアタマが作れたお子さんの力によつて昭和維新の大業が完全に成し得られた時、どんな苦勞を重ねても愉快ではありませんか。

この書によつて算數を學ばしめ様とする皆さんは、必ずこの事を忘れてはならないのであります。幾度も幾度も讀んでシツカリあたまに入れて置いて昭和維新達成の爲に、そのお子さんを正しく強く作り上げて戴きたい事を繰り返へして願ひする次第であります。

特220

346

